
東温市 まちづくり職員アンケート
－ 報告書 －

令和元年（2019年）10月
愛媛県 東温市

～ 目 次 ～

I 調査の概要	1
II 回答者の属性	2
1 性別構成	2
2 年齢別構成	2
III 調査結果	3
【1】住みやすさなどについて	3
1 市民にとっての東温市の住みやすさ	3
2 東温市への愛着度	4
3 今後の永住意向	5
4 「住み続けたい東温市」を実現するために必要な取組	12
【2】まちづくりの満足度と重要度について	14
1 重点施策の満足度と重要度	14
2 行政施策の満足度と重要度	25
【3】暮らしについて	36
1 暮らしの幸福度	36
2 暮らしの満足度	38
【4】今後のまちづくりについて	40
1 今後のまちづくりにおける市民と行政の関係性	40
2 東温市の将来像	42
3 「市民参画・協働のまちづくり」のために必要な取組	45
4 今後の行政サービスのあり方	48
5 東温市の行財政改革の優先項目	50

I 調査の概要

【調査の目的】

本調査は、「第2次東温市総合計画（基本計画）」及び「第2期東温市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に当たって、東温市のまちづくりに関する職員の意識や意見等を把握し、今後の計画づくりのための基礎資料とすることを目的として実施した。

【調査対象】

市の職員

【調査方法】

事務局による配布・回収

【調査時期】

令和元年（2019年）8月

【回収結果】

有効回収数 ----- 333件

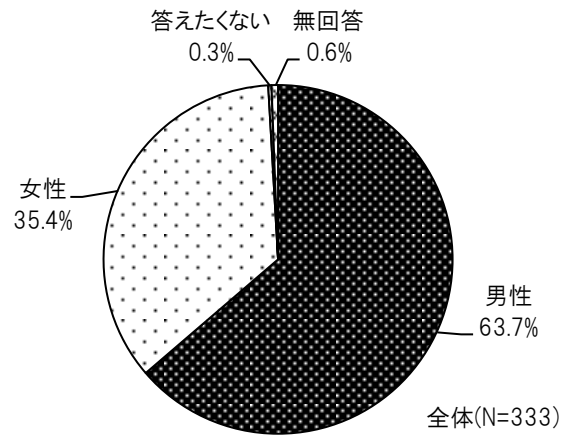
【報告書の見方について】

- 1 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- 2 2つ以上の回答を可能とした（複数回答）設問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- 3 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。全標本数を示す「全体」を「N」、「該当数」を「n」で表記している。
- 4 図表中における年齢別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者（例えば、年齢別でクロス集計する場合における年齢の無回答者）を除いて表記しているため、属性ごとの基数（n）の合計と全体の基数（N）は一致しない場合がある。
- 5 図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値（例：0.0%、0.1%など）は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合がある。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- 6 設問によっては、平成26年度（2014年度）に実施した同調査（「前回調査」と表記）との比較をおこなっている。
- 7 この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

II 回答者の属性

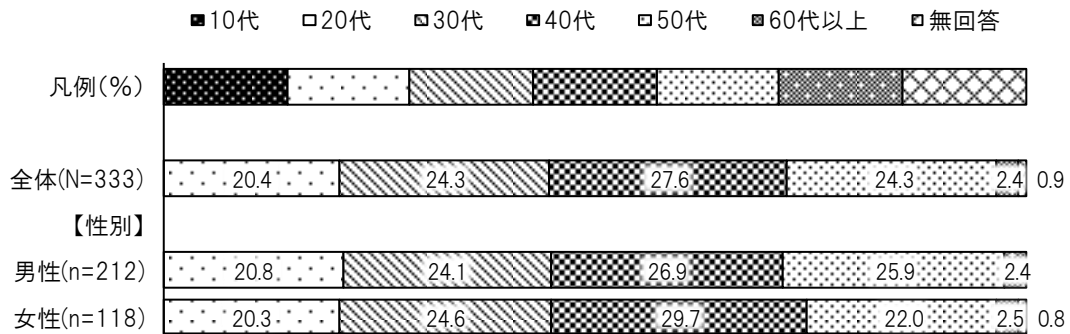
1 性別構成

回答者の性別構成比は、「男性」が63.7%、「女性」が35.4%と、男性の割合が高い。



2 年齢別構成

年齢別構成は、「40代」の割合が27.6%と最も高く、次いで「30代」「50代」(各24.3%)、「20代」(20.4%)の順となっており、性別では大きな差はみられない。



Ⅲ 調査結果

【1】住みやすさなどについて

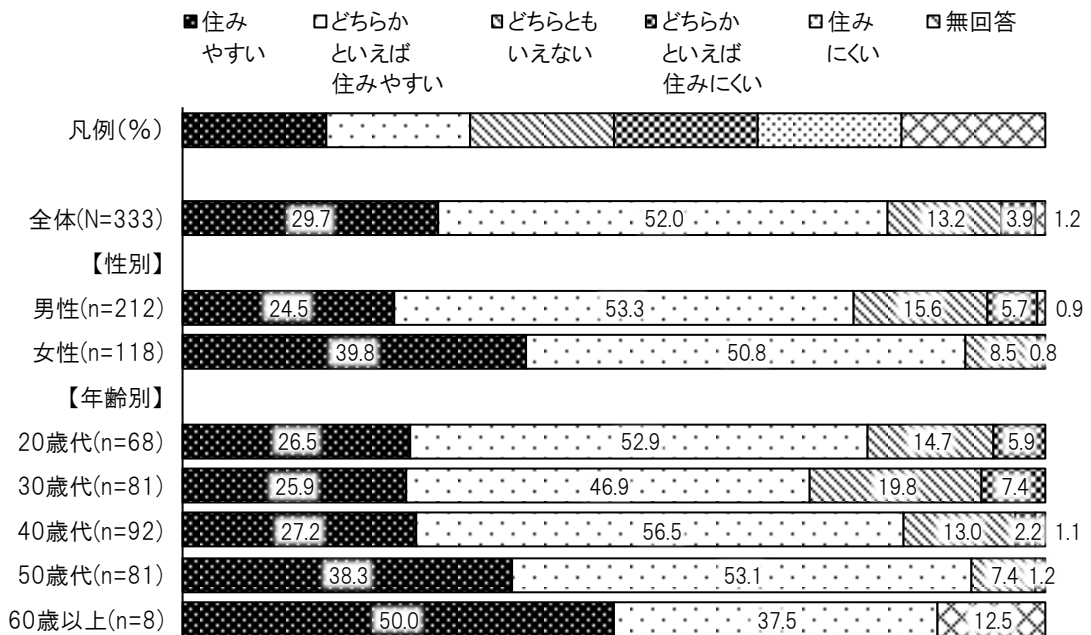
1 市民にとっての東温市の住みやすさ

問4 あなたは、東温市が市民にとって「住みやすいまち」だと感じますか。
(○は1つ)

市民にとっての東温市の住みやすさについては、「住みやすい」の割合が29.7%、「どちらかといえば住みやすい」が52.0%で、合計8割以上(81.7%)が『住みやすい』と回答している。一方、「どちらかといえば住みにくい」(3.9%)、「どちらともいえない」は13.2%みられた。「住みにくい」の回答はなかった。

性別では、女性で「住みやすい」の割合が男性を上回っている。

年齢別では、50歳代で「住みやすい」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。

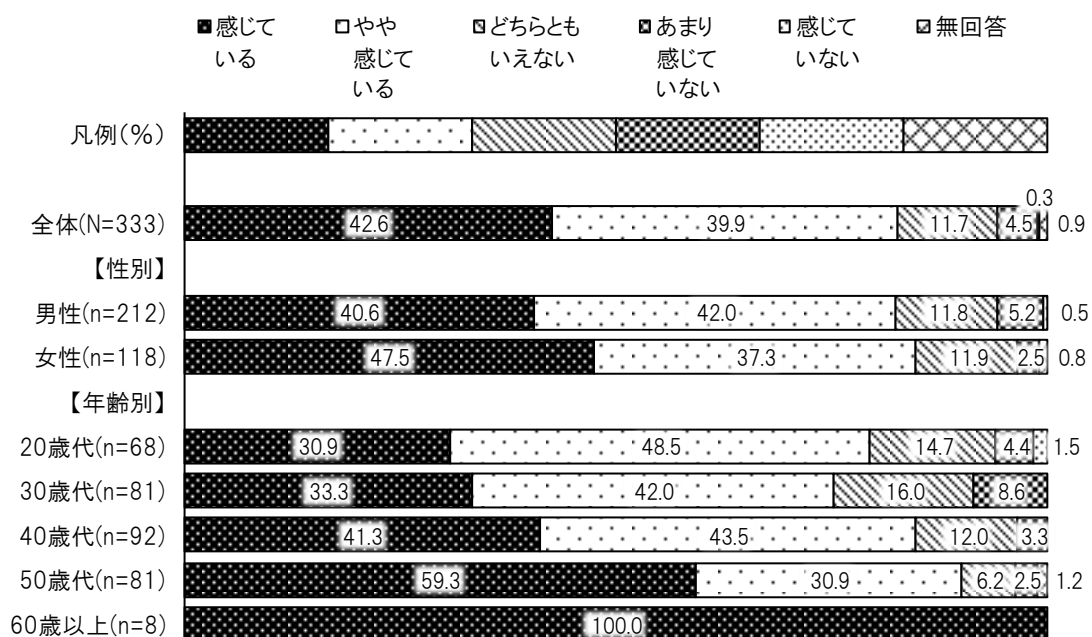


2 東温市への愛着度

問5 あなたは、東温市に愛着を感じていますか。(〇は1つ)

東温市への愛着度については、「感じている」の割合が42.6%、「やや感じている」が39.9%で、合計8割以上(82.5%)が『愛着を感じている』と回答している。一方、「あまり感じていない」(4.5%)と「感じていない」(0.3%)の合計は4.8%、「どちらともいえない」は11.7%みられた。

性別では、女性で「感じている」の割合が男性を上回っており、年齢別では、年齢が上がるほど「感じている」の割合が増える傾向にある。



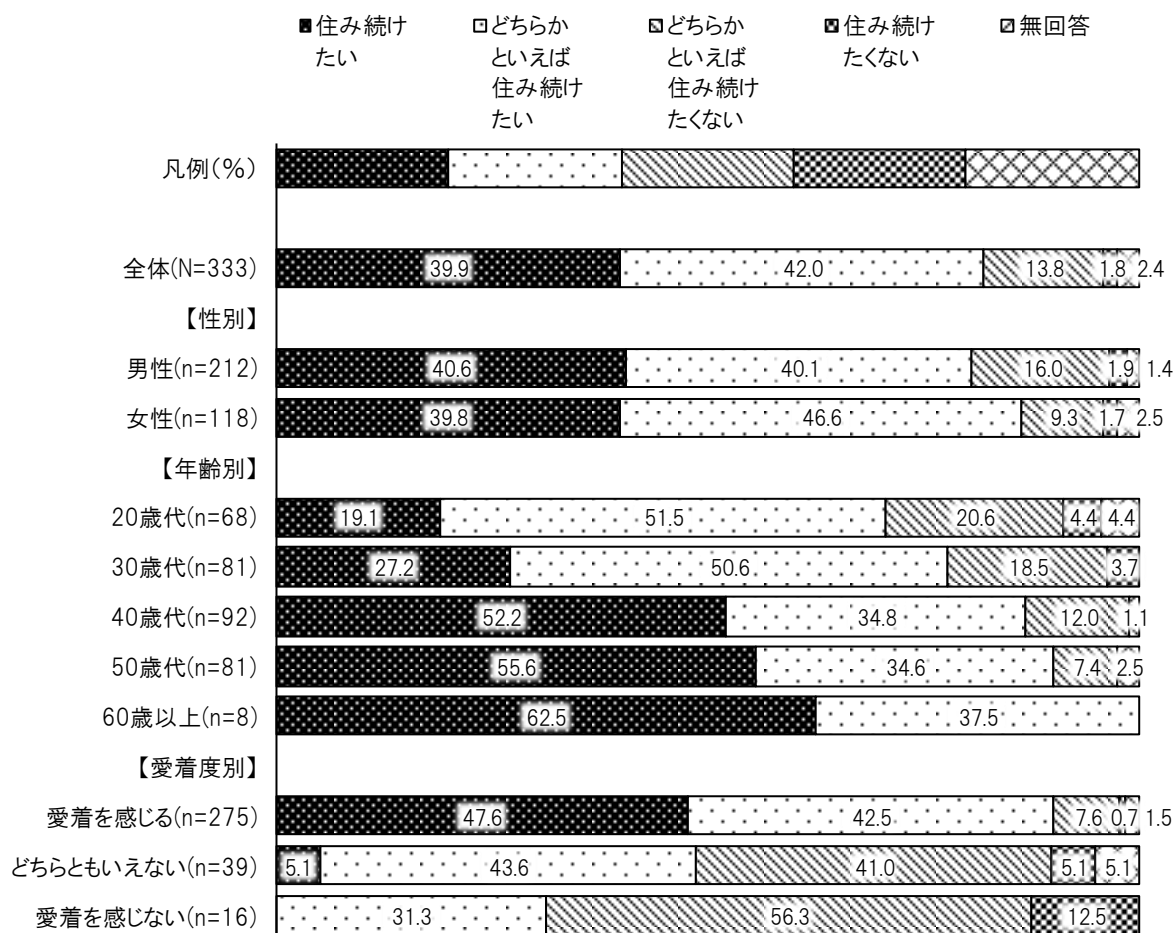
3 今後の永住意向

問6 あなたは、これからも東温市に住み続けたいと思いますか。（市外に住んでいる方は、東温市民の立場になったとしてお考え下さい。）（〇は1つ）

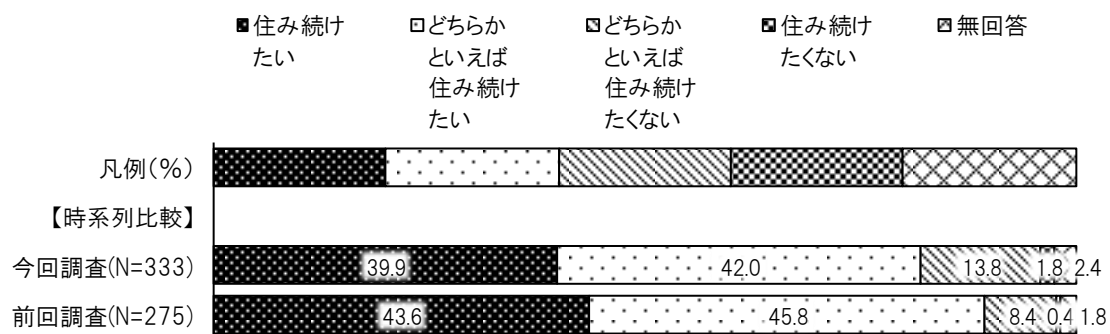
今後の永住意向については、「住み続けたい」の割合が39.9%、「どちらかといえば住み続けたい」が42.0%で、合計8割以上（81.9%）が『住み続けたい』と回答している。一方、「どちらかといえば住み続けたくない」（13.8%）と「住み続けたくない」（1.8%）の合計は15.6%となっている。

性別では大きな差はみられないが、年齢別では、年齢が上がるほど「住み続けたい」の割合が増える傾向にある。一方、若い年齢層ほど「どちらかといえば住み続けたくない」の割合が高くなっている。

愛着度別では、愛着を感じる層で永住意向が高くなっている。



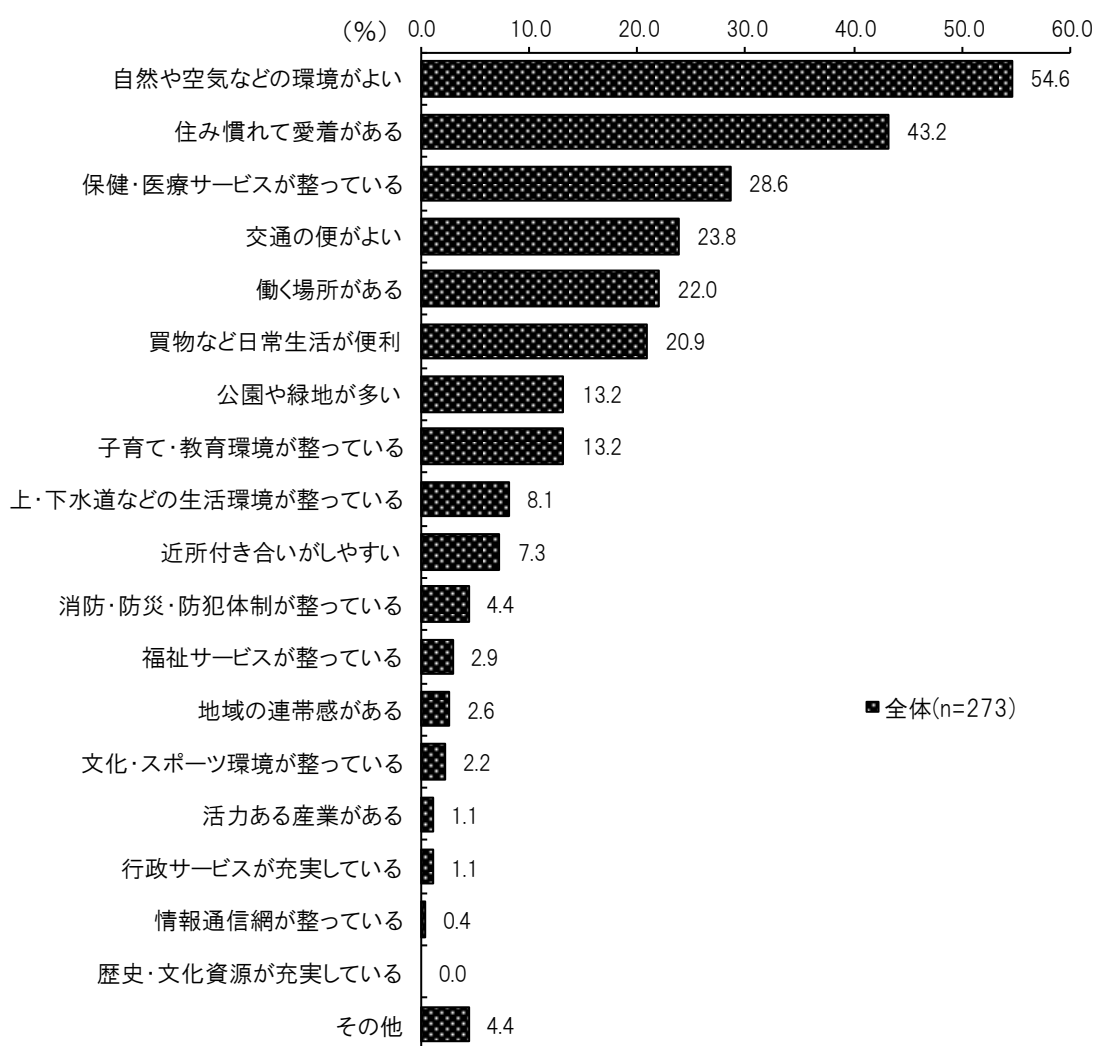
【参考／前回調査との比較】



(1) 住み続けたい理由

問7 【問6で「1～2」と答えた方におたずねします】住み続けたいと思う主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

住み続けたい理由については、「自然や空気などの環境がよい」の割合が54.6%と最も高く、次いで「住み慣れて愛着がある」(43.2%)、「保健・医療サービスが整っている」(28.6%)、「交通の便がよい」(23.8%)、「働く場所がある」(22.0%)、「買物など日常生活が便利」(20.9%)の順となっている。



性別では、女性で「自然や空気などの環境がよい」「働く場所がある」「子育て・教育環境が整っている」の割合が男性を上回っている。

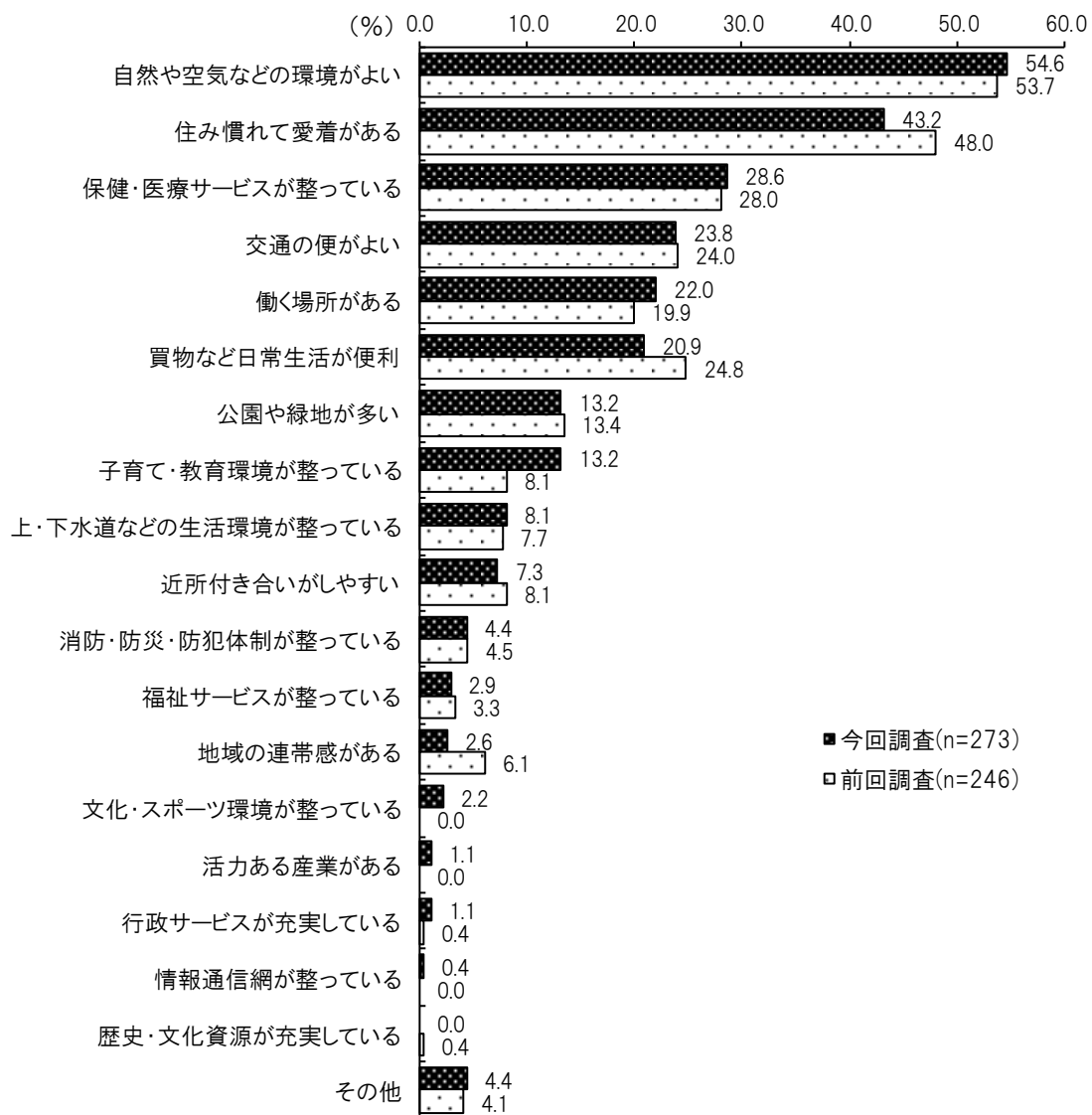
年齢別では、30歳代以下で「公園や緑地が多い」「子育て・教育環境が整っている」、30～40歳代で「働く場所がある」の割合が、他の年齢層に比べてそれぞれ高くなっている。また、年齢が上がるほど「住み慣れて愛着がある」「交通の便がよい」の割合が増える傾向にある。

単位 (%)	の自然環境や空気がよいなど	が住み慣れて愛着	るビ健スが・整つてサイ	交通の便がよい	働く場所がある	活買が便利など日常生活	い公園や緑地が多い	境子が育つて教育環境	整の生・下水道などが	しやす付き合いが	い犯体防制・防炎つて防
全体(n=273)	54.6	43.2	28.6	23.8	22.0	20.9	13.2	13.2	8.1	7.3	4.4
【性別】											
男性(n=171)	50.9	44.4	28.1	25.7	19.3	20.5	11.1	8.2	9.9	8.2	5.8
女性(n=102)	60.8	41.2	29.4	20.6	26.5	21.6	16.7	21.6	4.9	5.9	2.0
【年齢別】											
20歳代(n=48)	60.4	29.2	33.3	10.4	16.7	25.0	27.1	29.2	6.3	8.3	8.3
30歳代(n=63)	50.8	34.9	19.0	17.5	31.7	19.0	27.0	23.8	9.5	3.2	7.9
40歳代(n=80)	48.8	51.3	26.3	23.8	31.3	18.8	6.3	6.3	7.5	6.3	1.3
50歳代(n=73)	57.5	54.8	34.2	34.2	6.8	23.3	1.4	2.7	6.8	12.3	2.7
60歳以上(n=8)	75.0	12.5	37.5	62.5	12.5	12.5	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0

単位 (%)	整福つ社てサイるビスが	あ地域の連帯感が	る環境が・整つてサイ	文化が・整つてサイ	ある力ある産業が	充行政しサイビスが	整情つ報て通い信網が	が歴史・文化資源	その他
全体(n=273)	2.9	2.6	2.2	1.1	1.1	0.4	0.0	4.4	
【性別】									
男性(n=171)	2.3	1.8	2.3	1.2	0.0	0.0	0.0	5.8	
女性(n=102)	3.9	3.9	2.0	1.0	2.9	1.0	0.0	2.0	
【年齢別】									
20歳代(n=48)	4.2	4.2	4.2	0.0	2.1	0.0	0.0	6.3	
30歳代(n=63)	3.2	3.2	3.2	0.0	1.6	1.6	0.0	4.8	
40歳代(n=80)	1.3	1.3	2.5	2.5	1.3	0.0	0.0	1.3	
50歳代(n=73)	4.1	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	4.1	
60歳以上(n=8)	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	

注：表中の「網掛け」は、各クロス集計（性別・年齢別など）において最も高い割合を示している。
 （例／性別の場合、男性と女性を比べて高い方に網掛け。）
 但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目及び「その他」については網掛けしていない。
 また「無回答」は表記から省略している。（本報告書においては、以下同様）

【参考／前回調査との比較】

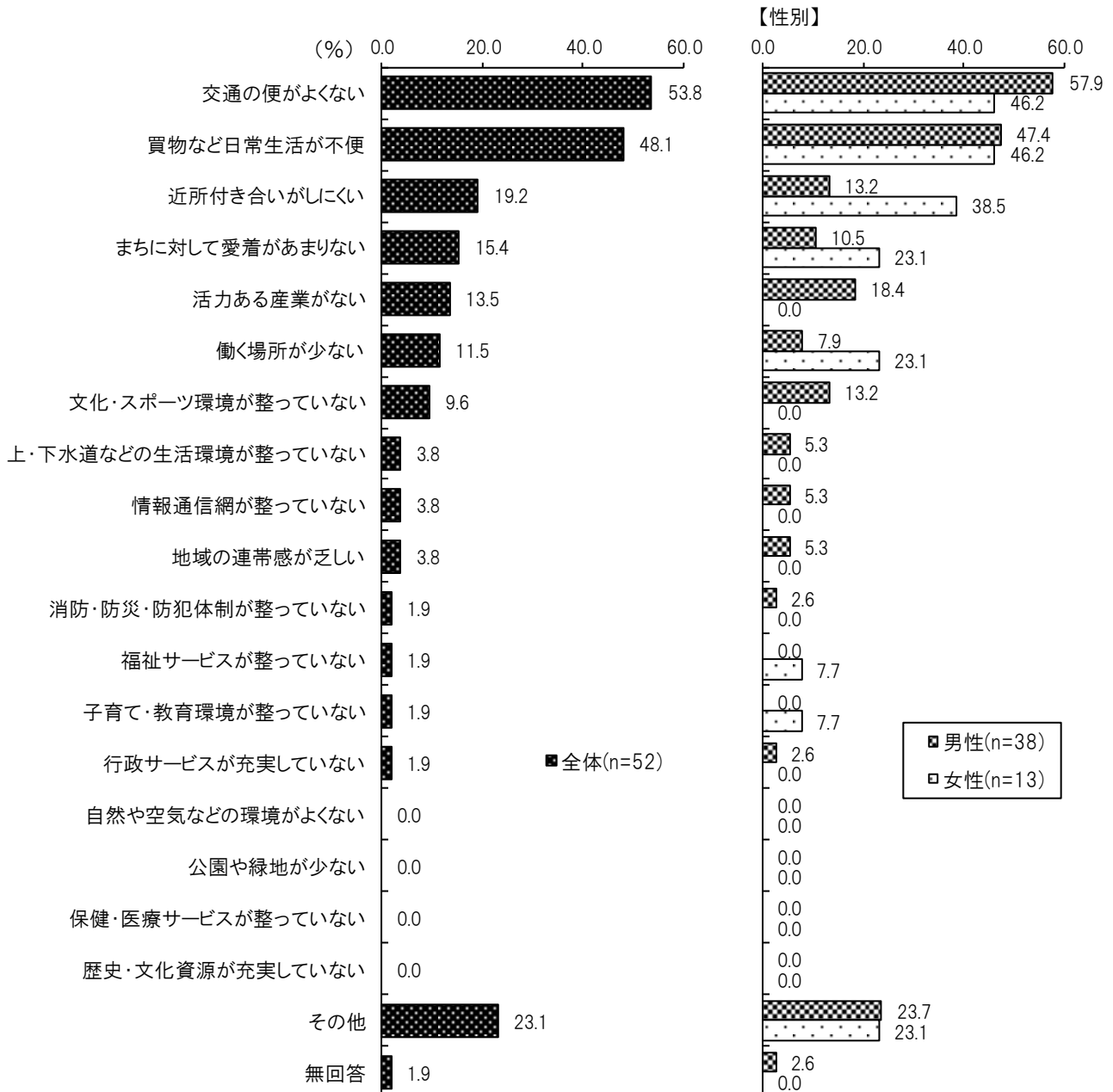


(2) 住み続けたくない理由

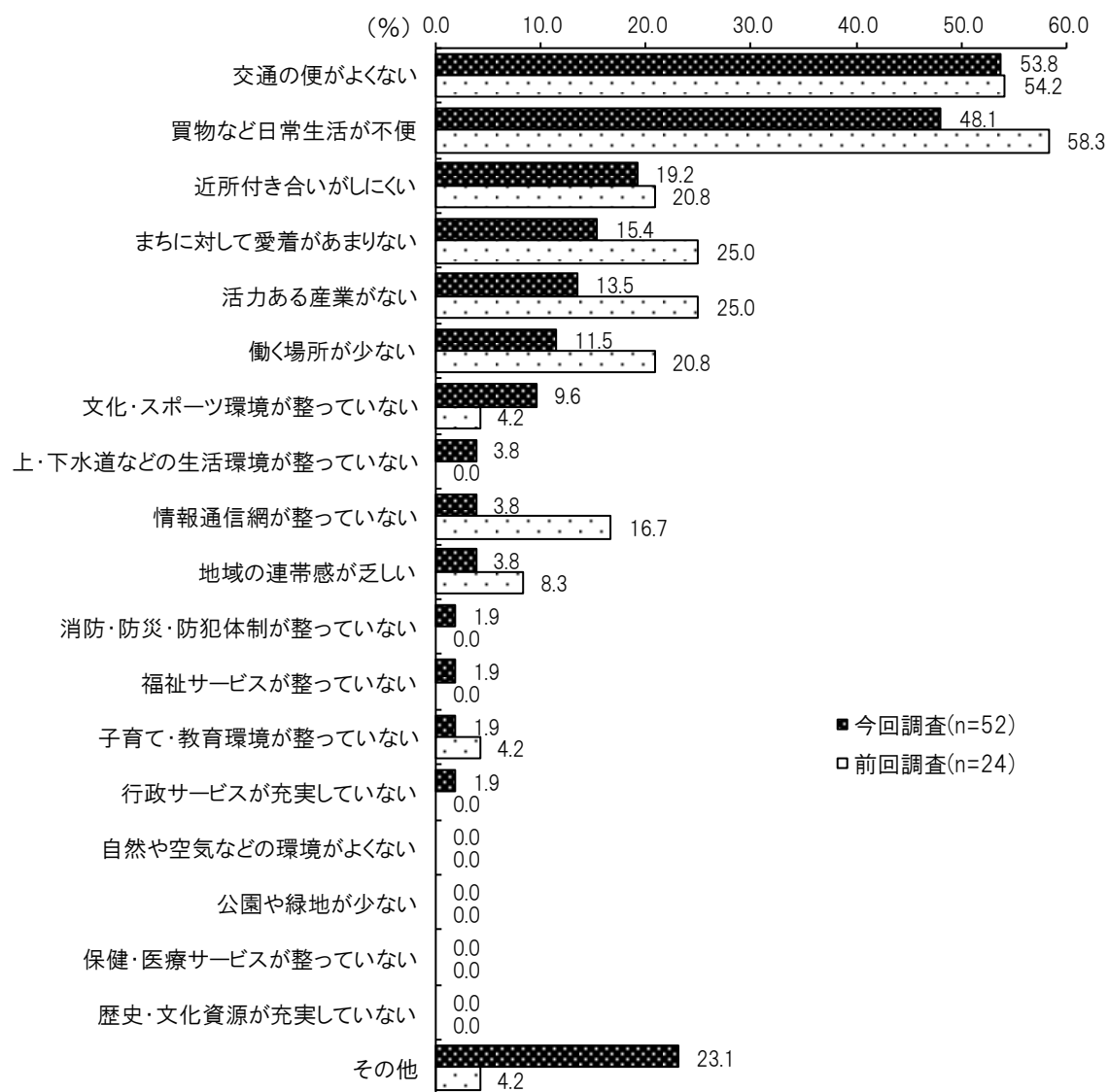
問8 【問6で「3～4」と答えた方におたずねします】住み続けたくないと思う主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

住み続けたくない理由については、「交通の便がよくない」の割合が53.8%と最も高く、次いで「買物など日常生活が不便」(48.1%)、「近所付き合いがしにくい」(19.2%)、「まちに対して愛着があまりない」(15.4%)、「活力ある産業がない」(13.5%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べて「交通の便がよくない」「活力ある産業がない」「文化・スポーツ環境が整っていない」の割合が高く、女性で「近所付き合いがしにくい」「まちに対して愛着があまりない」「働く場所が少ない」の割合が男性を上回っている。



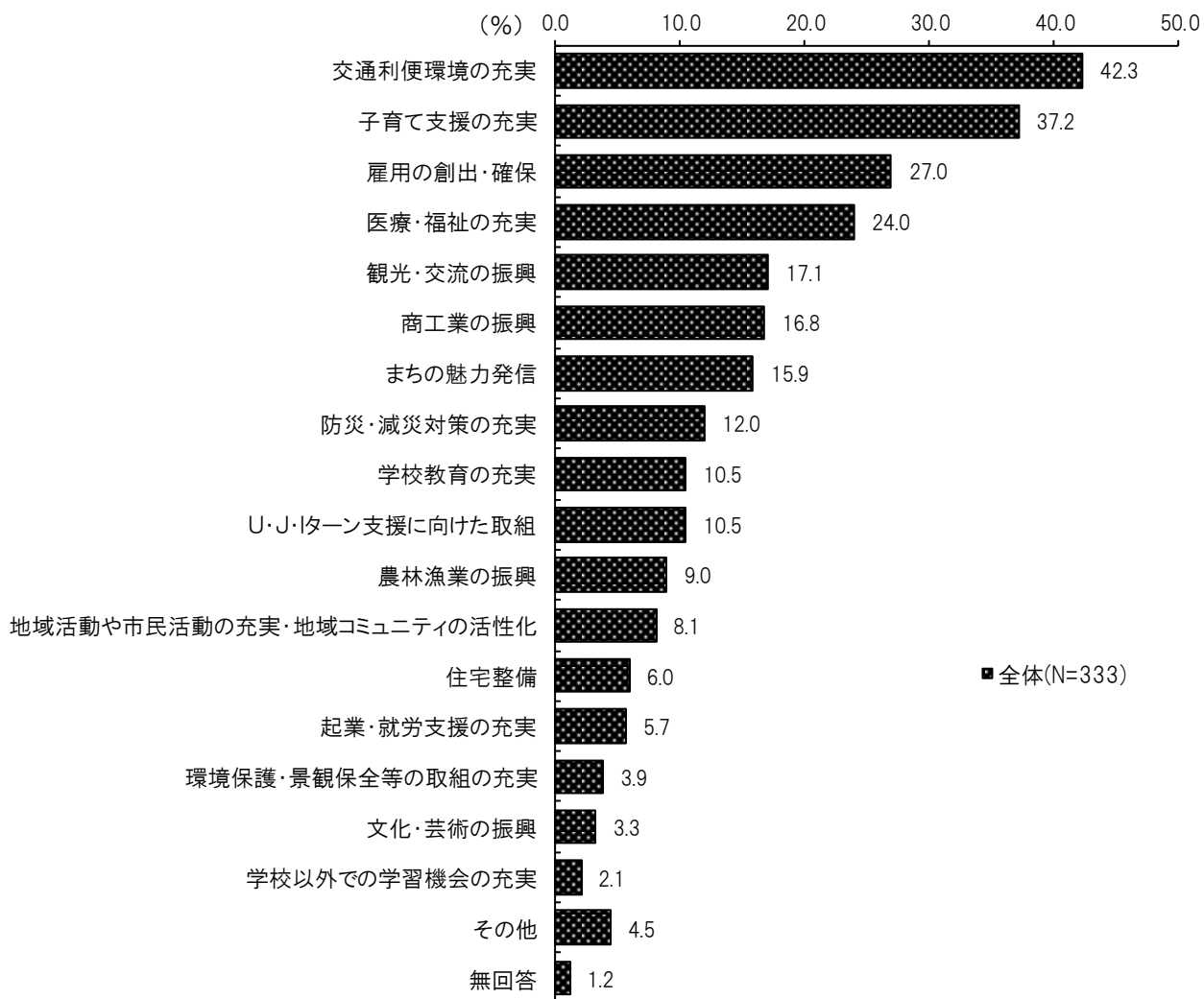
【参考／前回調査との比較】



4 「住み続けたい東温市」を実現するために必要な取組

問9 今後、「住み続けたい東温市」を実現していくために、どのような取組が必要だと思いますか。（〇は3つまで）

「住み続けたい東温市」を実現するために必要な取組については、「交通利便環境の充実」の割合が42.3%と最も高く、次いで「子育て支援の充実」(37.2%)、「雇用の創出・確保」(27.0%)、「医療・福祉の充実」(24.0%)の順となっている。



性別では、男性は女性に比べて「商工業の振興」の割合が高く、女性で「交通利便環境の充実」「医療・福祉の充実」の割合が男性を上回っている。

年齢別では、20歳代で「まちの魅力発信」、30歳代で「子育て支援の充実」、50歳代で「農林漁業の振興」の割合が、他の年齢層に比べてそれぞれ高くなっている。また、年齢が上がるほど「雇用の創出・確保」「医療・福祉の充実」の割合が増え、若い年齢層ほど「観光・交流の振興」の割合が増える傾向にある。

単位 (%)	交通利便環境の充実	子育て支援の充実	雇用の創出・確保	医療・福祉の充実	観光・交流の振興	商工業の振興	まちの魅力発信	防災・減災対策の充実	学校教育の充実	U・J・T・インターン支援に向けた取組	農林漁業の振興
全体(N=333)	42.3	37.2	27.0	24.0	17.1	16.8	15.9	12.0	10.5	10.5	9.0
【性別】											
男性(n=212)	36.3	35.8	28.8	19.8	18.9	23.6	13.7	14.2	11.3	7.1	10.8
女性(n=118)	53.4	39.8	23.7	32.2	14.4	4.2	20.3	8.5	8.5	16.1	5.9
【年齢別】											
20歳代(n=68)	48.5	35.3	22.1	14.7	25.0	17.6	23.5	17.6	4.4	13.2	4.4
30歳代(n=81)	38.3	49.4	22.2	22.2	24.7	23.5	12.3	6.2	13.6	7.4	2.5
40歳代(n=92)	44.6	30.4	27.2	23.9	16.3	14.1	16.3	8.7	12.0	12.0	8.7
50歳代(n=81)	38.3	35.8	34.6	32.1	6.2	14.8	11.1	14.8	7.4	7.4	19.8
60歳以上(n=8)	37.5	25.0	37.5	37.5	0.0	0.0	25.0	37.5	37.5	37.5	12.5

単位 (%)	地域活性化活動 の充実	住宅整備	起業・就業支援の充実	環境保護・景観保全の取組	文化・芸術の振興	学校以外の学習機会	その他
全体(N=333)	8.1	6.0	5.7	3.9	3.3	2.1	4.5
【性別】							
男性(n=212)	8.0	7.1	5.7	4.7	3.3	2.8	5.7
女性(n=118)	8.5	4.2	5.1	2.5	3.4	0.8	2.5
【年齢別】							
20歳代(n=68)	5.9	7.4	7.4	7.4	4.4	2.9	2.9
30歳代(n=81)	6.2	6.2	4.9	4.9	2.5	1.2	3.7
40歳代(n=92)	7.6	3.3	6.5	2.2	3.3	3.3	6.5
50歳代(n=81)	13.6	8.6	2.5	2.5	3.7	1.2	4.9
60歳以上(n=8)	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0

【2】まちづくりの満足度と重要度について

1 重点施策の満足度と重要度

問 10 次にあげる本市の重点施策それぞれについておたずねします。次の施策それぞれについて、現在、どれくらい満足されていますか。また、今後、どの程度重要だと思われますか。（○はそれぞれ1つずつ）

（1）重点施策の満足度

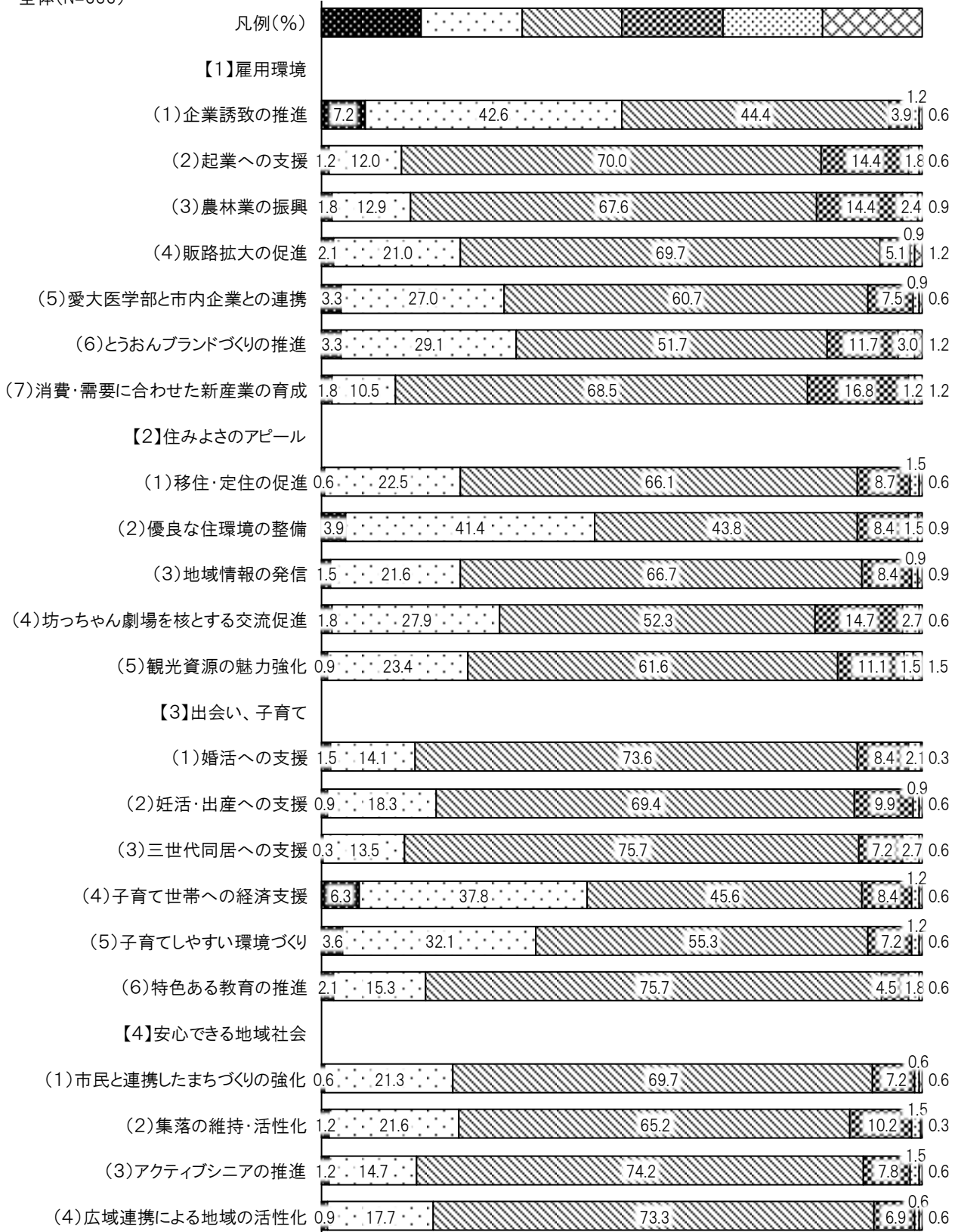
重点施策の22項目について、現在の満足度を5段階評価で質問したところ、「満足」「ある程度満足」の合計割合が最も高かったのは、「【1】（1）企業誘致の推進」（49.8%）で、以下「【2】（2）優良な住環境の整備」（45.3%）、「【3】（4）子育て世帯への経済支援」（44.1%）、「【3】（5）子育てしやすい環境づくり」（35.7%）、「【1】（6）とうおんブランドづくりの推進」（32.4%）、「【1】（5）愛大医学部と市内企業との連携」（30.3%）、「【2】（4）坊っちゃん劇場を核とする交流促進」（29.7%）などの順となっている。

一方、「不満」「やや不満」の合計割合が最も高かったのは、「【1】（7）消費・需要に合わせた新産業の育成」（18.0%）で、次いで「【2】（4）坊っちゃん劇場を核とする交流促進」（17.4%）、「【1】（3）農林業の振興」（16.8%）、「【1】（2）起業への支援」（16.2%）、「【1】（6）とうおんブランドづくりの推進」（14.7%）などの順となっている。

「【1】（6）とうおんブランドづくりの推進」「【2】（4）坊っちゃん劇場を核とする交流促進」は、満足度が高い一方で、不満度も比較的高くなっている。

問10 満足度
全体(N=333)

■満足 □ある程度満足 □どちらともいえない □やや不満 □不満 □無回答



【満足度／平均評定値による集計】

満足度は以下に示す平均評定値を算出する方法で点数化している。

(なお、後述の行政施策の満足度についても同様の算出方法を用いる。)

- 「満足度」については「満足」「ある程度満足」への回答とともに、「やや不満」「不満」「どちらともいえない」という選択肢もある。そのため、この「満足度」をより的確に分析するために、平均評定値による指標化を行った。
- 平均評定値は、「満足」に+10点、「ある程度満足」に+5点、「やや不満」に-5点、「不満」に-10点、「どちらともいえない」に0点の係数(ウエイト)を設定し、

【(「満足」の回答件数)×10(点)+(「ある程度満足」の回答件数)×5(点)+(「やや不満」の回答件数)×-5(点)+(「不満」の回答件数)×-10(点)+(「どちらともいえない」の回答件数)×0(点)]÷【回答者件数-無回答件数】

の計算によって算出し、指標としている。

- この指標によって、「満足度」の強弱を、より明確に分析することができる。

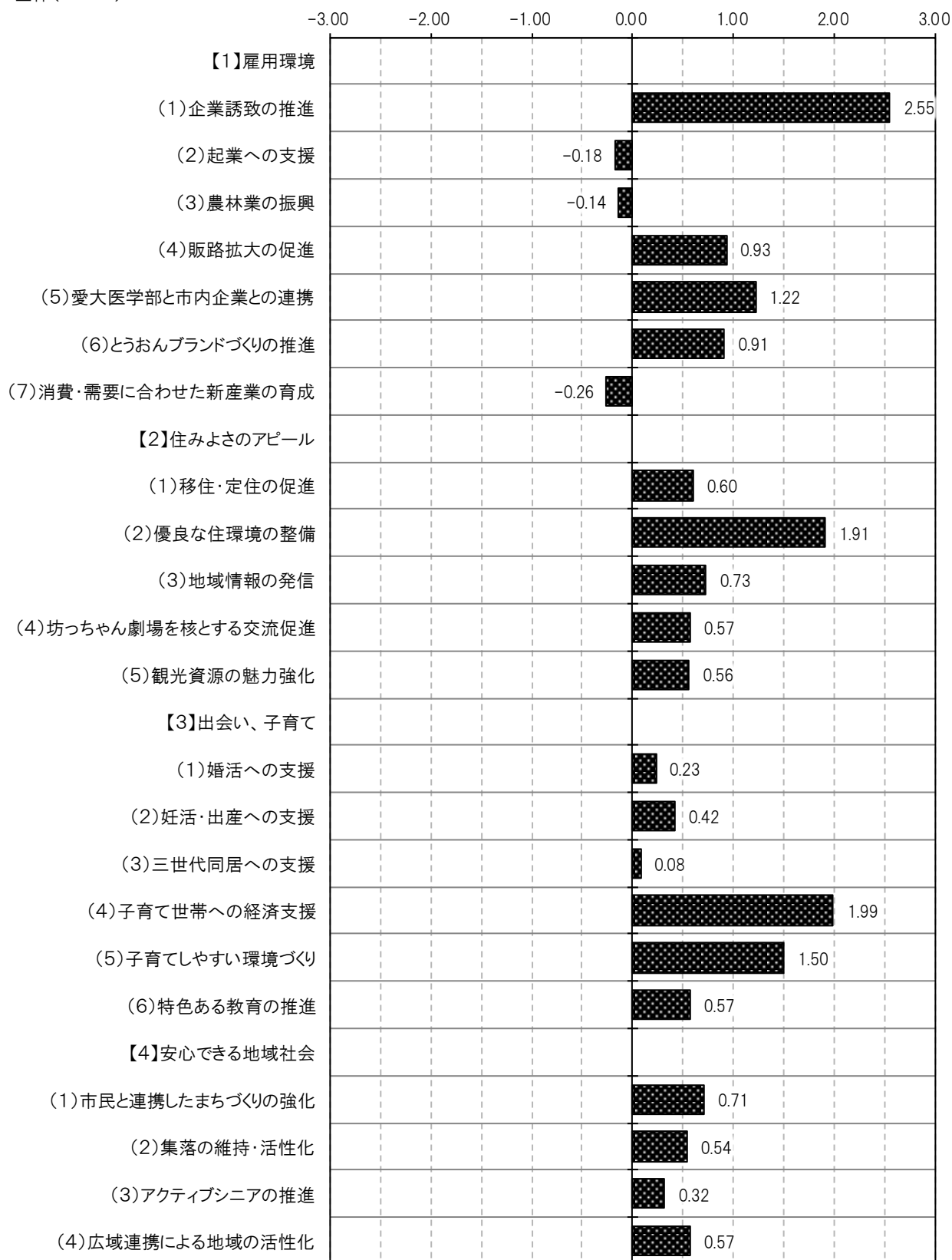
この指標による分析結果をみると、満足度評価が最も高い施策は、「【1】(1) 企業誘致の推進」(2.55)で、以下「【3】(4) 子育て世帯への経済支援」(1.99)、「【2】(2) 優良な住環境の整備」(1.91)、「【3】(5) 子育てしやすい環境づくり」(1.50)、「【1】(5) 愛大医学部と市内企業との連携」(1.22)などの順となっている。

一方、相対的に満足度評価が低い施策としては、「【1】(7) 消費・需要に合わせた新産業の育成」(-0.26)、「【1】(2) 起業への支援」(-0.18)、「【1】(3) 農林業の振興」(-0.14)、「【3】(3) 三世帯同居への支援」(0.08)などがあげられる。

22項目中で平均評定値がプラス評価だったのは19項目、マイナス評価だったのは3項目となっている。

問10 満足度
全体(N=333)

低い ← → 高い



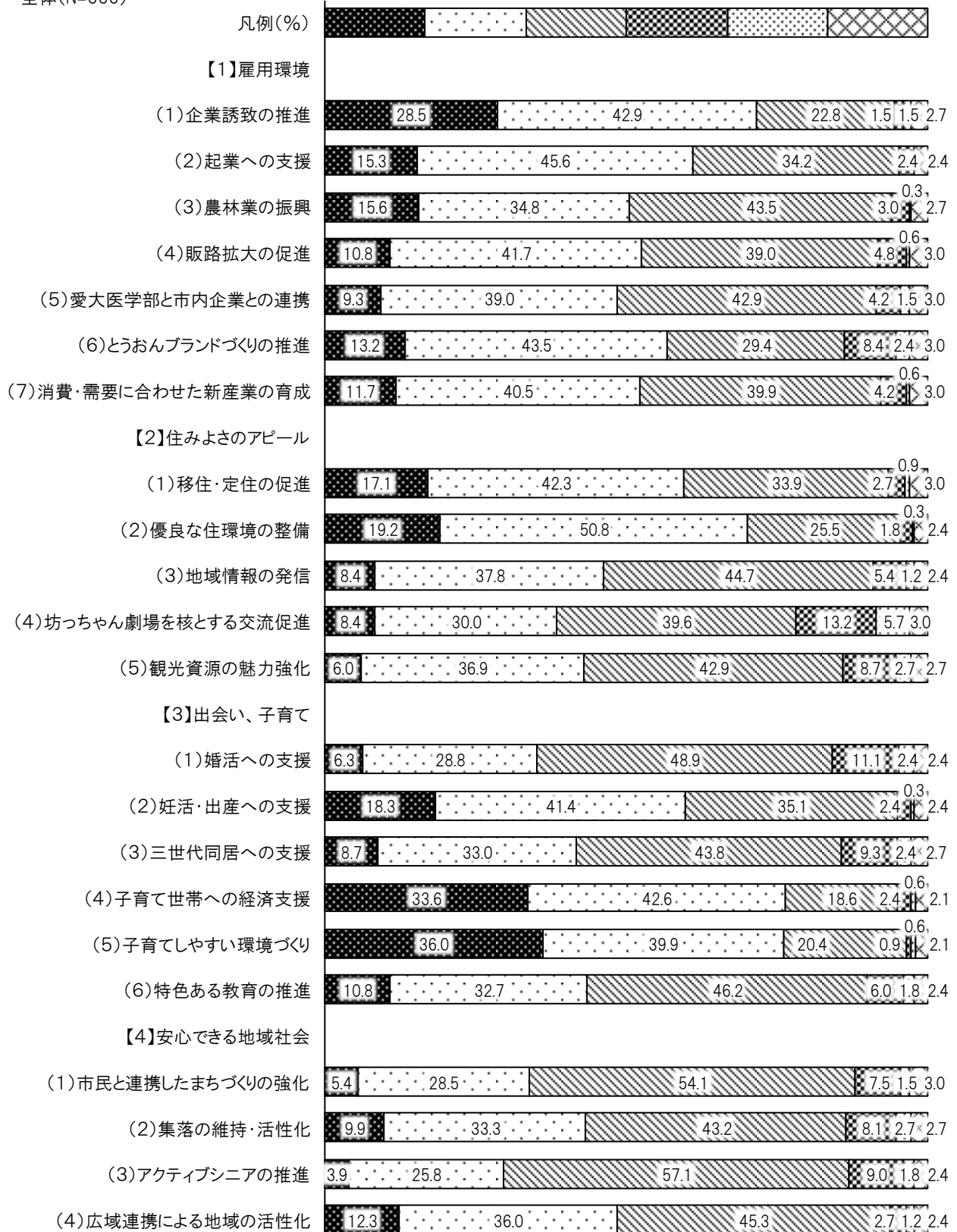
(2) 重点施策の重要度

重点施策の22項目について、現在の重要度を5段階評価で質問したところ、「重要」「やや重要」の合計割合が最も高かったのは、「【3】(4)子育て世帯への経済支援」(76.2%)で、以下「【3】(5)子育てしやすい環境づくり」(75.9%)、「【1】(1)企業誘致の推進」(71.4%)、「【2】(2)優良な住環境の整備」(70.0%)、「【1】(2)起業への支援」(60.9%)、「【3】(2)妊活・出産への支援」(59.7%)、「【2】(1)移住・定住の促進」(59.4%)などの順となっている。

一方、「重要ではない」「あまり重要ではない」の合計割合が最も高かったのは、「【2】(4)坊っちゃん劇場を核とする交流促進」(18.9%)で、次いで「【3】(1)婚活への支援」(13.5%)、「【3】(3)三世帯同居への支援」(11.7%)、「【2】(5)観光資源の魅力強化」(11.4%)などの順となっている。

問10 重要度
全体(N=333)

■重要 □やや重要 □どちらとも
いえない □あまり重要
ではない □重要では
ない □無回答



【重要度／平均評定値による集計】

重要度は以下に示す平均評定値を算出する方法で点数化している。

(なお、後述の行政施策の重要度についても同様の算出方法を用いる。)

- 「重要度」については「重要」「やや重要」への回答とともに、「あまり重要ではない」「重要ではない」「どちらともいえない」という選択肢もある。そのため、この「重要度」をよりの確に分析するために、平均評定値による指標化を行った。
- 平均評定値は、「重要」に+10点、「やや重要」に+5点、「あまり重要ではない」に-5点、「重要ではない」に-10点、「どちらともいえない」に0点の係数(ウエイト)を設定し、

【(「重要」の回答件数)×10(点)+(「やや重要」の回答件数)×5(点)+(「あまり重要ではない」の回答件数)×-5(点)+(「重要ではない」の回答件数)×-10(点)+(「どちらともいえない」の回答件数)×0(点)]÷【回答者件数-無回答件数】

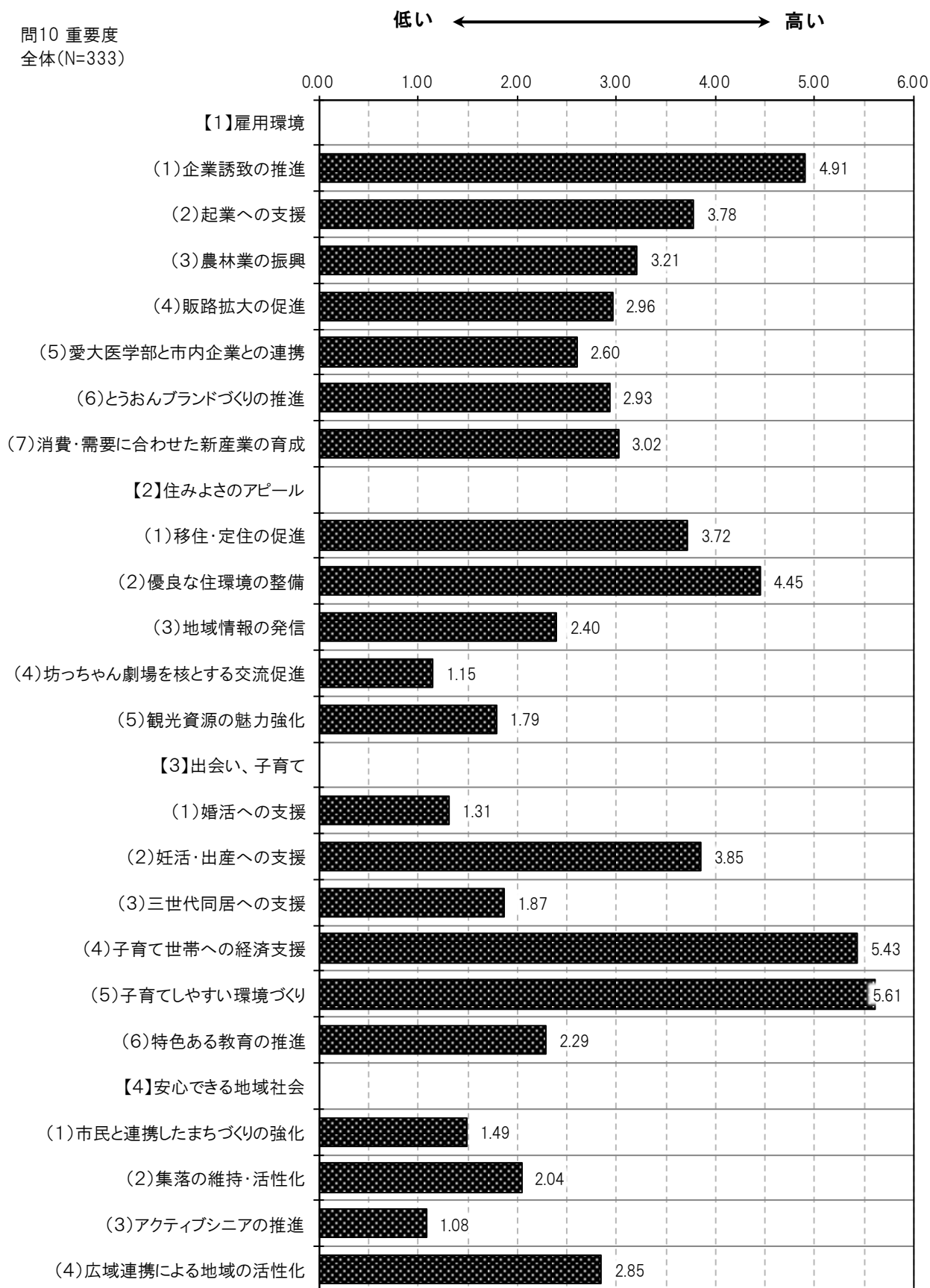
の計算によって算出し、指標としている。

- この指標によって、「重要度」の強弱を、より明確に分析することができる。

この指標による分析結果をみると、重要度評価が最も高い施策は、「【3】(5)子育てしやすい環境づくり」(5.61)で、以下「【3】(4)子育て世帯への経済支援」(5.43)、「【1】(1)企業誘致の推進」(4.91)、「【2】(2)優良な住環境の整備」(4.45)などの順となっている。

一方、相対的に重要度評価が低い施策としては、「【4】(3)アクティブシニアの推進」(1.08)、「【2】(4)坊っちゃん劇場を核とする交流促進」(1.15)、「【3】(1)婚活への支援」(1.31)、「【4】(1)市民と連携したまちづくりの強化」(1.49)、「【2】(5)観光資源の魅力強化」(1.79)などがあげられる。

問10 重要度
全体(N=333)

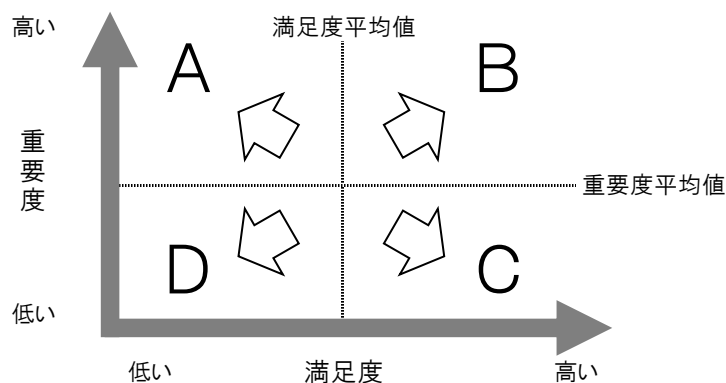


(3) 重点施策の満足度と重要度の相関図による分析

満足度と重要度の平均評定値をもとに、縦軸に重要度、横軸に満足度を設定し、22の重点施策を散布図上に示したものが相関図である。

満足度と重要度の各平均値を基準としてA～Dの4つの領域に区分し、各施策がどの領域に配置されるのかを整理する。

(なお、後述の行政施策の相関図についても同様の算出方法を用いる。)



4つの領域については、左上(A)、右上(B)、右下(C)、左下(D)の4方向に進むにしたがい、以下のような傾向を示している。

A. 重要度が高く、満足度が低い（重点化・見直し領域）

今後のまちづくりにおける重要度が高いが、満足度が相対的に低く、施策の重点化や抜本的な見直しなども含め、満足度を高める必要のある領域。

B. 重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）

今後のまちづくりにおける重要度も満足度も高く、現時点での満足度の水準を維持していくことが必要な領域。

C. 重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）

今後のまちづくりにおける重要度は低いものの満足度が高く、満足度の水準を維持していくか、あるいは施策のあり方を含めて、見直すべき必要のある領域。

D. 重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）

今後のまちづくりにおける重要度も満足度も低く、施策の目的やニーズを再確認するとともに、施策のあり方や進め方そのものを、改めて見直す必要のある領域。

【A 重点化・見直し領域】

A重点化・見直し領域に含まれる施策は次のとおりである。

	満足度	重要度
【1】（2）起業への支援	-0.18	3.78
【1】（3）農林業の振興	-0.14	3.21
【1】（7）消費・需要に合わせた新産業の育成	-0.26	3.02
【2】（1）移住・定住の促進	0.60	3.72
【3】（2）妊活・出産への支援	0.42	3.85

【B 現状維持領域】

B現状維持領域に含まれる施策は次のとおりである。

	満足度	重要度
【1】（1）企業誘致の推進	2.55	4.91
【1】（4）販路拡大の促進	0.93	2.96
【2】（2）優良な住環境の整備	1.91	4.45
【3】（4）子育て世帯への経済支援	1.99	5.43
【3】（5）子育てしやすい環境づくり	1.50	5.61

【C 現状維持・見直し領域】

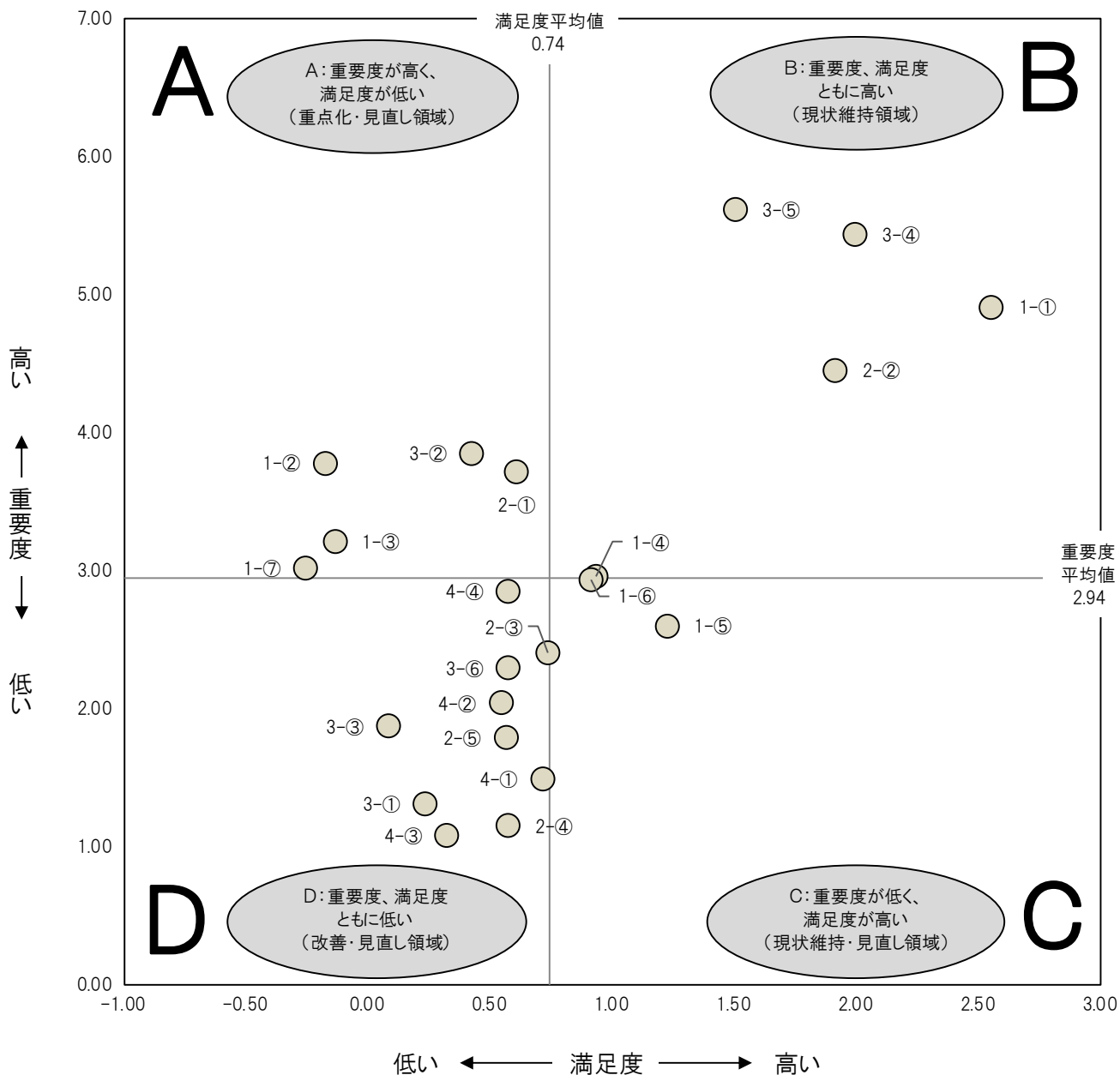
C現状維持・見直し領域に含まれる施策は次のとおりである。

	満足度	重要度
【1】（5）愛大医学部と市内企業との連携	1.22	2.60
【1】（6）とうおんブランドづくりの推進	0.91	2.93

【D 改善・見直し領域】

D改善・見直し領域に含まれる施策は次のとおりである。

	満足度	重要度
【2】（3）地域情報の発信	0.73	2.40
【2】（4）坊っちゃん劇場を核とする交流促進	0.57	1.15
【2】（5）観光資源の魅力強化	0.56	1.79
【3】（1）婚活への支援	0.23	1.31
【3】（3）三世帯同居への支援	0.08	1.87
【3】（6）特色ある教育の推進	0.57	2.29
【4】（1）市民と連携したまちづくりの強化	0.71	1.49
【4】（2）集落の維持・活性化	0.54	2.04
【4】（3）アクティブシニアの推進	0.32	1.08
【4】（4）広域連携による地域の活性化	0.57	2.85



【1】雇用環境	領域
1-①企業誘致の推進	B
1-②起業への支援	A
1-③農林業の振興	A
1-④販路拡大の促進	B
1-⑤愛大医学部と市内企業との連携	C
1-⑥とうおんブランドづくりの推進	C
1-⑦消費・需要に合わせた新産業の育成	A
【2】住みよさのアピール	領域
2-①移住・定住の促進	A
2-②優良な住環境の整備	B
2-③地域情報の発信	D
2-④坊っちゃん劇場を核とする交流促進	D
2-⑤観光資源の魅力強化	D

【3】出会い、子育て	領域
3-①婚活への支援	D
3-②妊活・出産への支援	A
3-③三世同居への支援	D
3-④子育て世帯への経済支援	B
3-⑤子育てしやすい環境づくり	B
3-⑥特色ある教育の推進	D
【4】安心できる地域社会	領域
4-①市民と連携したまちづくりの強化	D
4-②集落の維持・活性化	D
4-③アクティブシニアの推進	D
4-④広域連携による地域の活性化	D

2 行政施策の満足度と重要度

問 11 次にあげる本市の行政施策それぞれについておたずねします。次の施策それぞれについて、現在、どれくらい満足されていますか。また、今後、どの程度重要だと思われますか。（○はそれぞれ1つずつ）

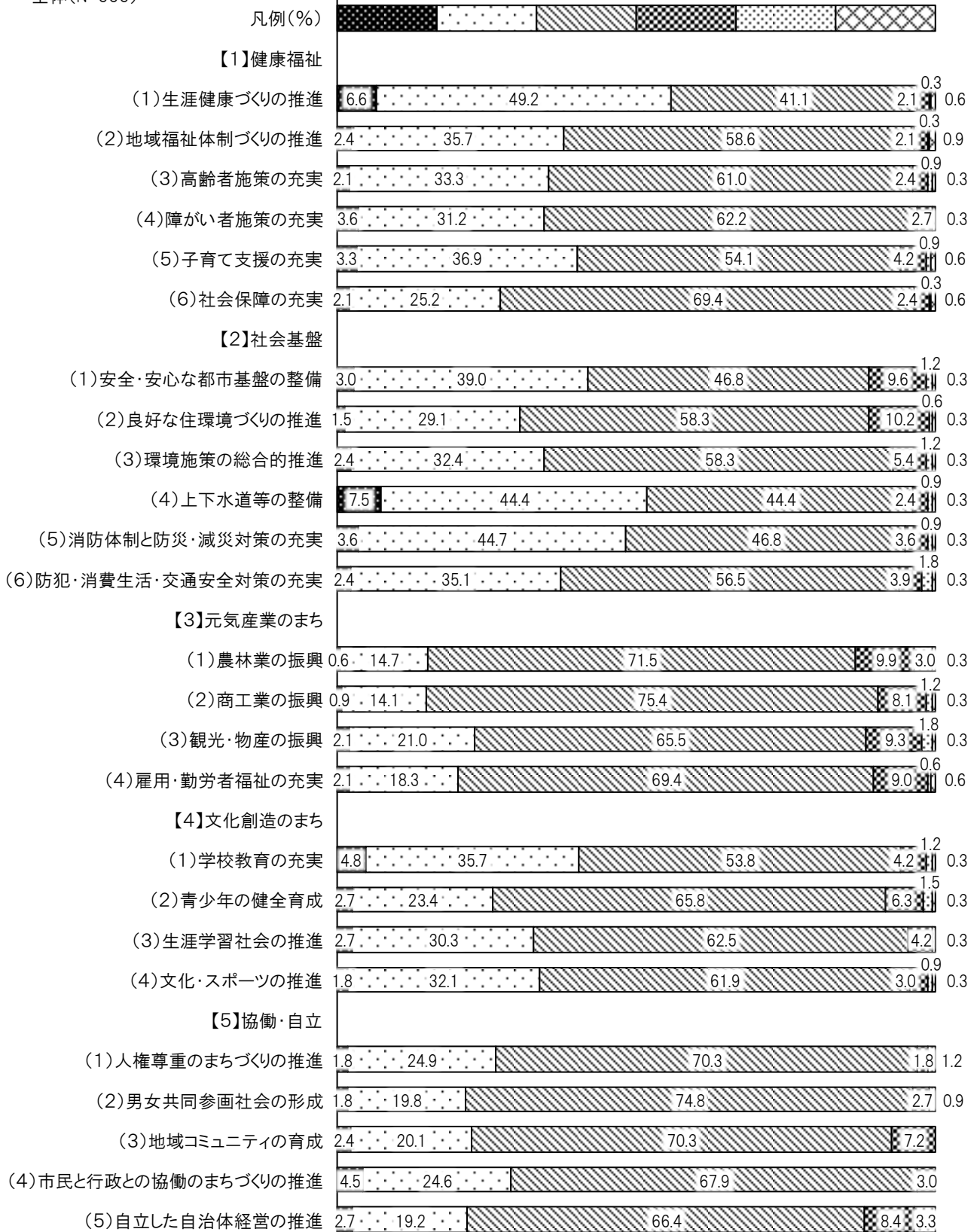
（1）行政施策の満足度

行政施策の25項目について、現在の満足度を5段階評価で質問したところ、「満足」「ある程度満足」の合計割合が最も高かったのは、「【1】（1）生涯健康づくりの推進」（55.8%）で、以下「【2】（4）上下水道等の整備」（51.9%）、「【2】（5）消防体制と防災・減災対策の充実」（48.3%）などの順となっている。

一方、「不満」「やや不満」の合計割合が最も高かったのは、「【3】（1）農林業の振興」（12.9%）で、次いで「【5】（5）自立した自治体経営の推進」（11.7%）、「【3】（3）観光・物産の振興」（11.1%）、「【2】（1）安全・安心な都市基盤の整備」「【2】（2）良好な住環境づくりの推進」（各10.8%）などの順となっている。

問11 満足度
全体(N=333)

■満足 □ある程度満足 □どちらともいえない □やや不満 □不満 □無回答



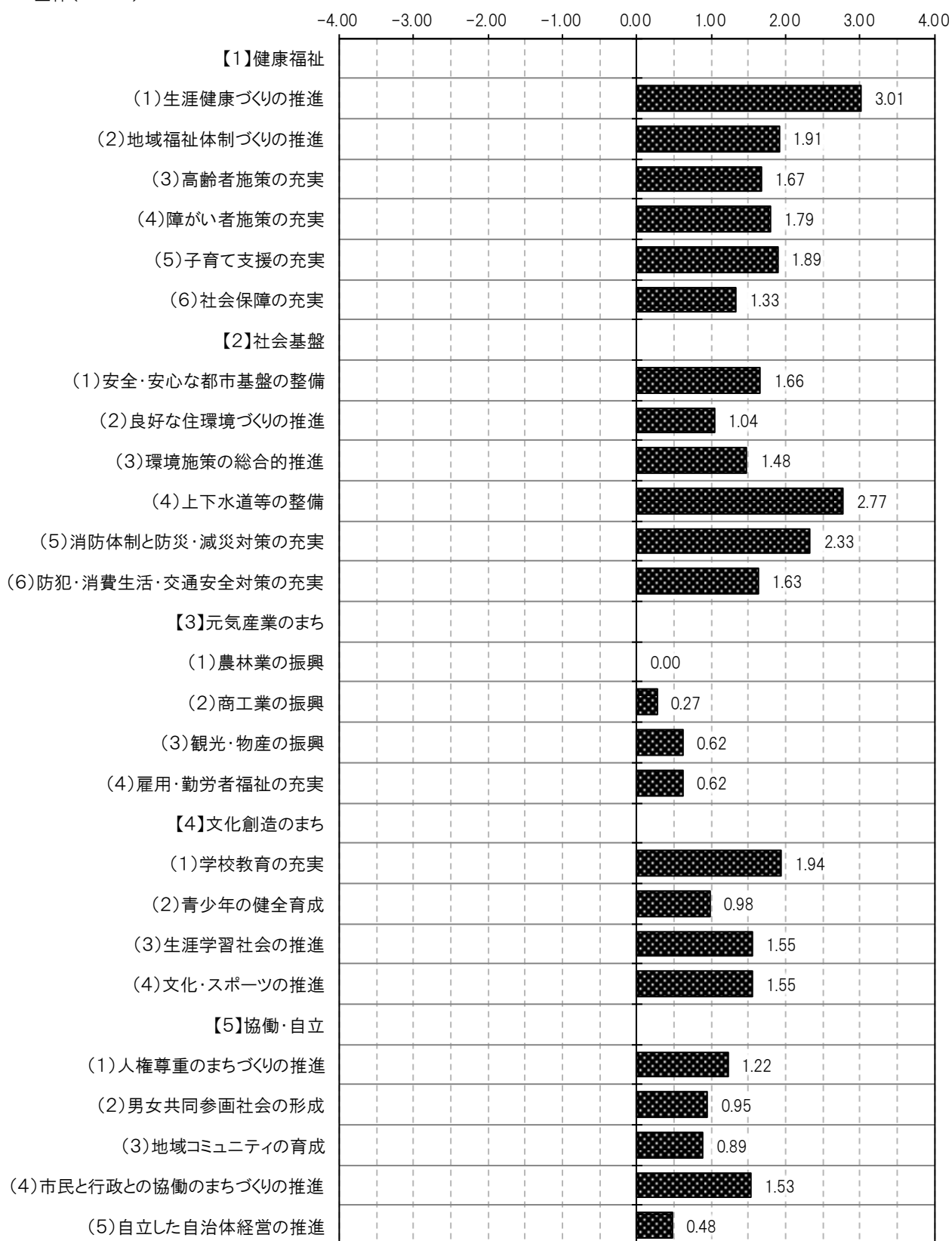
【満足度／平均評定値による集計】

満足度の平均評定値による分析結果をみると、満足度評価が最も高い施策は、「【1】(1) 生涯健康づくりの推進」(3.01)で、以下「【2】(4) 上下水道等の整備」(2.77)、「【2】(5) 消防体制と防災・減災対策の充実」(2.33)、「【4】(1) 学校教育の充実」(1.94)、「【1】(2) 地域福祉体制づくりの推進」(1.91)、「【1】(5) 子育て支援の充実」(1.89)などの順となっている。

一方、相対的に満足度評価が低い施策としては、「【3】(1) 農林業の振興」(0.00)、「【3】(2) 商工業の振興」(0.27)、「【5】(5) 自立した自治体経営の推進」(0.48)、「【3】(3) 観光・物産の振興」「【3】(4) 雇用・勤労者福祉の充実」(各0.62)などがあげられる。

問11 満足度
全体(N=333)

低い ← → 高い



(2) 行政施策の重要度

行政施策の25項目について、現在の重要度を5段階評価で質問したところ、「重要」「やや重要」の合計割合が最も高かったのは、「【1】(5)子育て支援の充実」「【2】(5)消防体制と防災・減災対策の充実」(各75.3%)で、以下「【1】(1)生涯健康づくりの推進」(73.8%)、「【4】(1)学校教育の充実」(70.8%)、「【4】(2)青少年の健全育成」(70.5%)、「【2】(4)上下水道等の整備」(70.2%)、「【2】(1)安全・安心な都市基盤の整備」(70.0%)などの順となっている。

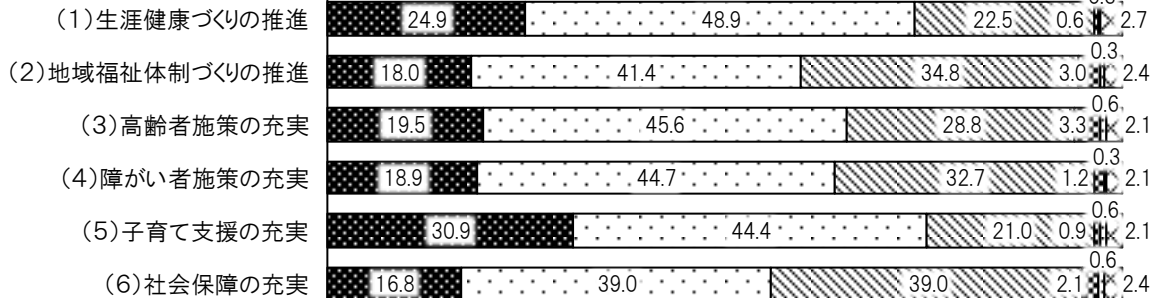
一方、「重要ではない」「あまり重要ではない」の合計割合が最も高かったのは、「【3】(3)観光・物産の振興」(7.2%)で、次いで「【5】(2)男女共同参画社会の形成」(6.3%)、「【4】(3)生涯学習社会の推進」「【5】(4)市民と行政との協働のまちづくりの推進」(各5.4%)などの順となっている。

問11 重要度
全体(N=333)

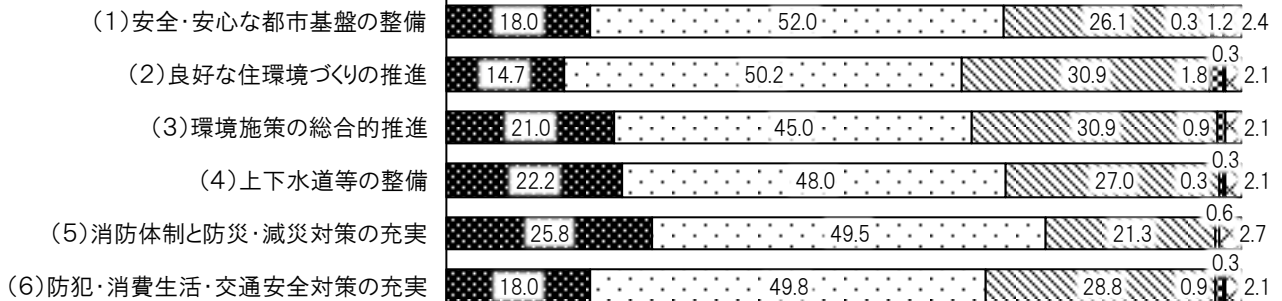
■重要 □やや重要 □どちらとも
いえない □あまり重要
ではない □重要では
ない □無回答

凡例(%)

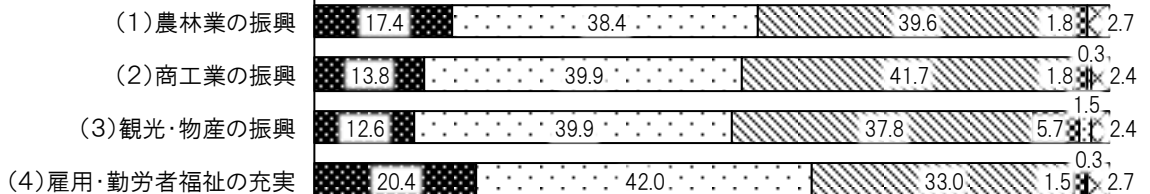
【1】健康福祉



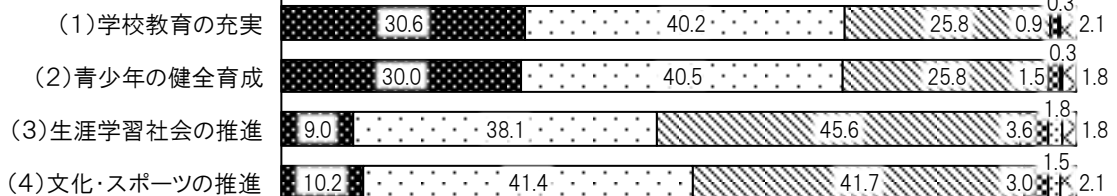
【2】社会基盤



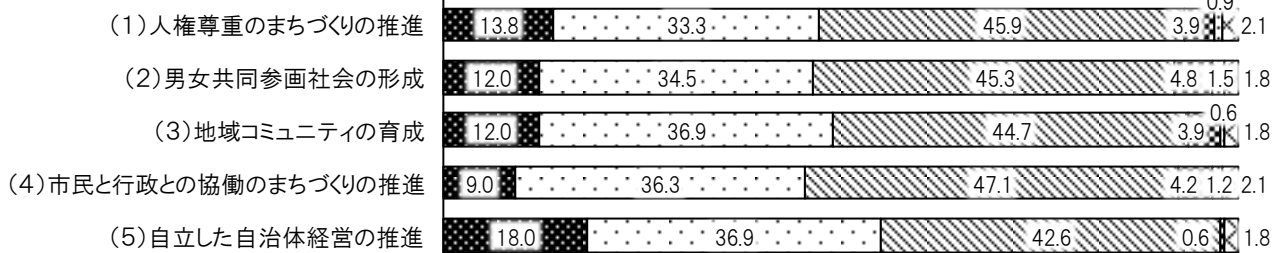
【3】元気産業のまち



【4】文化創造のまち



【5】協働・自立

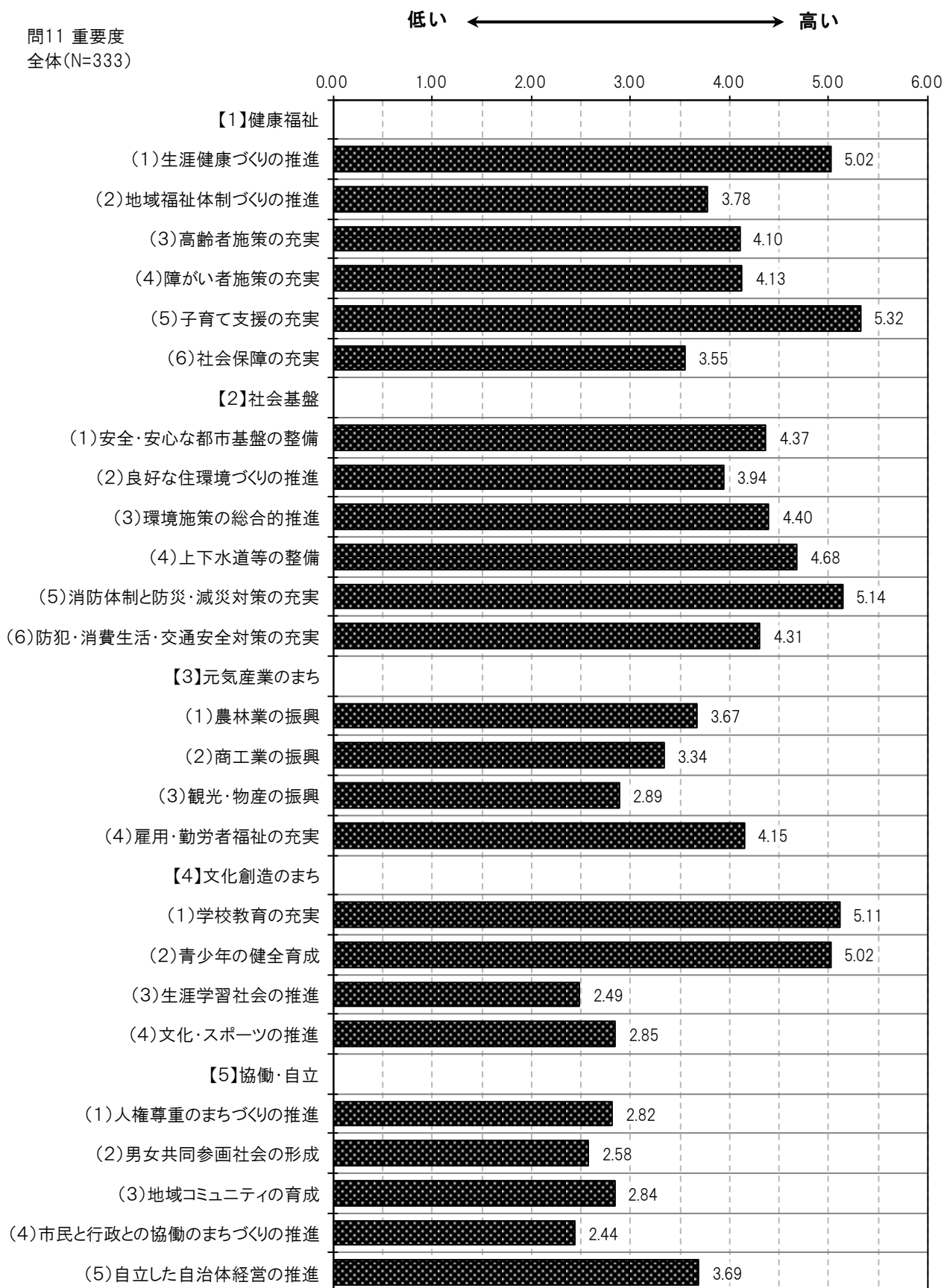


【重要度／平均評定値による集計】

重要度の平均評定値による分析結果をみると、重要度評価が最も高い施策は、「【1】(5)子育て支援の充実」(5.32)で、以下「【2】(5)消防体制と防災・減災対策の充実」(5.14)、「【4】(1)学校教育の充実」(5.11)、「【1】(1)生涯健康づくりの推進」「【4】(2)青少年の健全育成」(各5.02)などの順となっている。

一方、相対的に重要度評価が低い施策としては、「【5】(4)市民と行政との協働のまちづくりの推進」(2.44)、「【4】(3)生涯学習社会の推進」(2.49)、「【5】(2)男女共同参画社会の形成」(2.58)、「【5】(1)人権尊重のまちづくりの推進」(2.82)、「【5】(3)地域コミュニティの育成」(2.84)、「【4】(4)文化・スポーツの推進」(2.85)、「【3】(3)観光・物産の振興」(2.89)などがあげられる。

問11 重要度
全体(N=333)



(3) 行政施策の満足度と重要度の相関図による分析

満足度と重要度の平均評定値をもとに、縦軸に重要度、横軸に満足度を設定し、25の行政施策を散布図上に示したものが相関図である。

満足度と重要度の各平均値を基準としてA～Dの4つの領域に区分し、各施策がどの領域に配置されるのかを整理する。

【A 重点化・見直し領域】

A重点化・見直し領域に含まれる施策は次のとおりである。

	満足度	重要度
【2】 (2) 良好な住環境づくりの推進	1.04	3.94
【3】 (4) 雇用・勤労者福祉の充実	0.62	4.15
【4】 (2) 青少年の健全育成	0.98	5.02

【B 現状維持領域】

B現状維持領域に含まれる施策は次のとおりである。

	満足度	重要度
【1】 (1) 生涯健康づくりの推進	3.01	5.02
【1】 (3) 高齢者施策の充実	1.67	4.10
【1】 (4) 障がい者施策の充実	1.79	4.13
【1】 (5) 子育て支援の充実	1.89	5.32
【2】 (1) 安全・安心な都市基盤の整備	1.66	4.37
【2】 (3) 環境施策の総合的推進	1.48	4.40
【2】 (4) 上下水道等の整備	2.77	4.68
【2】 (5) 消防体制と防災・減災対策の充実	2.33	5.14
【2】 (6) 防犯・消費生活・交通安全対策の充実	1.63	4.31
【4】 (1) 学校教育の充実	1.94	5.11

【C 現状維持・見直し領域】

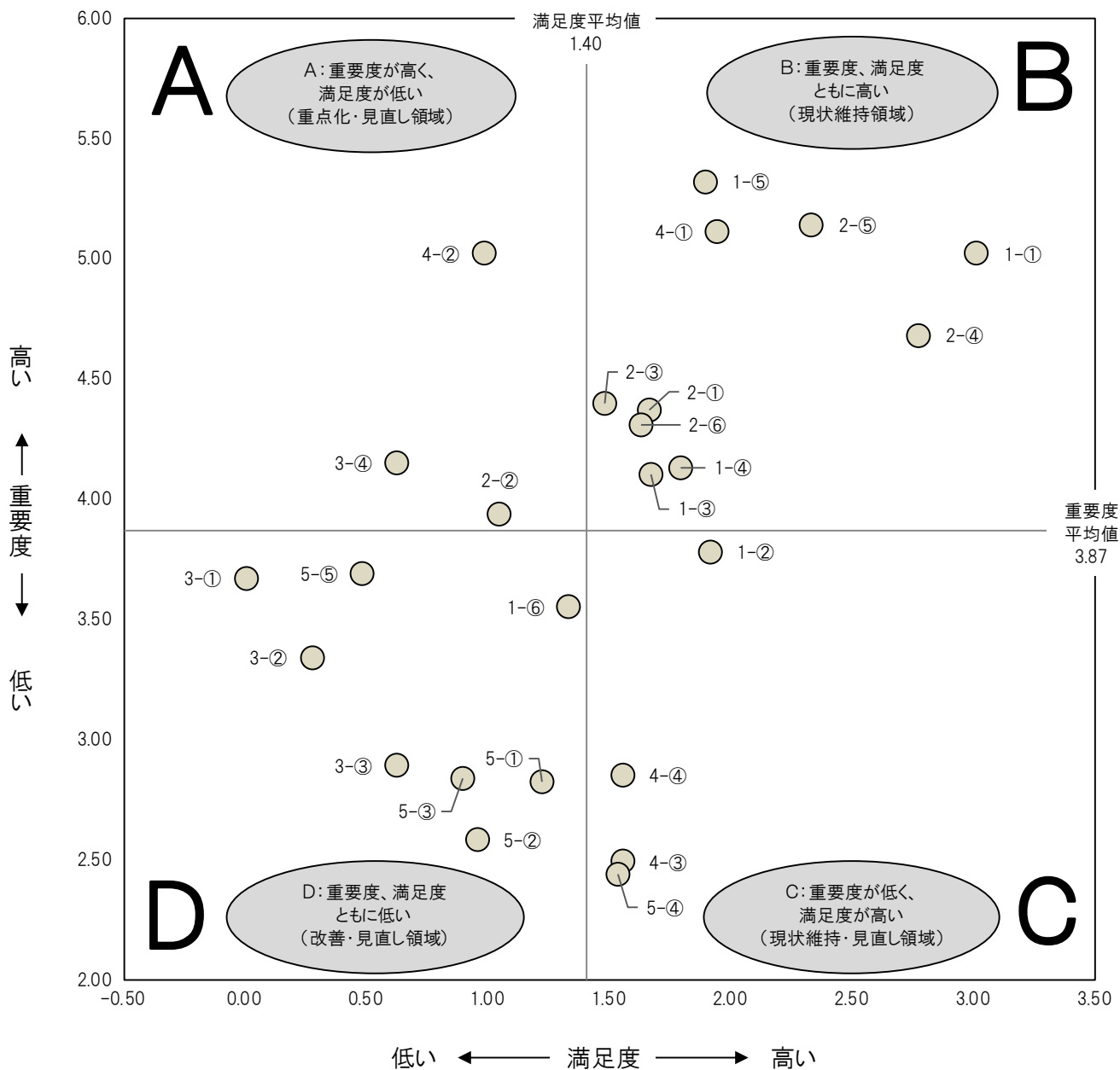
C現状維持・見直し領域に含まれる施策は次のとおりである。

	満足度	重要度
【1】 (2) 地域福祉体制づくりの推進	1.91	3.78
【4】 (3) 生涯学習社会の推進	1.55	2.49
【4】 (4) 文化・スポーツの推進	1.55	2.85

【D 改善・見直し領域】

D改善・見直し領域に含まれる施策は次のとおりである。

	満足度	重要度
【1】（6）社会保障の充実	1.33	3.55
【3】（1）農林業の振興	0.00	3.67
【3】（2）商工業の振興	0.27	3.34
【3】（3）観光・物産の振興	0.62	2.89
【5】（1）人権尊重のまちづくりの推進	1.22	2.82
【5】（2）男女共同参画社会の形成	0.95	2.58
【5】（3）地域コミュニティの育成	0.89	2.84
【5】（4）市民と行政との協働のまちづくりの推進	1.53	2.44
【5】（5）自立した自治体経営の推進	0.48	3.69



【1】健康福祉	領域
1-①生涯健康づくりの推進	B
1-②地域福祉体制づくりの推進	C
1-③高齢者施策の充実	B
1-④障がい者施策の充実	B
1-⑤子育て支援の充実	B
1-⑥社会保障の充実	D
【2】社会基盤	領域
2-①安全・安心な都市基盤の整備	B
2-②良好な住環境づくりの推進	A
2-③環境施策の総合的推進	B
2-④上下水道等の整備	B
2-⑤消防体制と防災・減災対策の充実	B
2-⑥防犯・消費生活・交通安全対策の充実	B

【3】元気産業のまち	領域
3-①農林業の振興	D
3-②商工業の振興	D
3-③観光・物産の振興	D
3-④雇用・勤労者福祉の充実	A
【4】文化創造のまち	領域
4-①学校教育の充実	B
4-②青少年の健全育成	A
4-③生涯学習社会の推進	C
4-④文化・スポーツの推進	C
【5】協働・自立	領域
5-①人権尊重のまちづくりの推進	D
5-②男女共同参画社会の形成	D
5-③地域コミュニティの育成	D
5-④市民と行政との協働のまちづくりの推進	C
5-⑤自立した自治体経営の推進	D

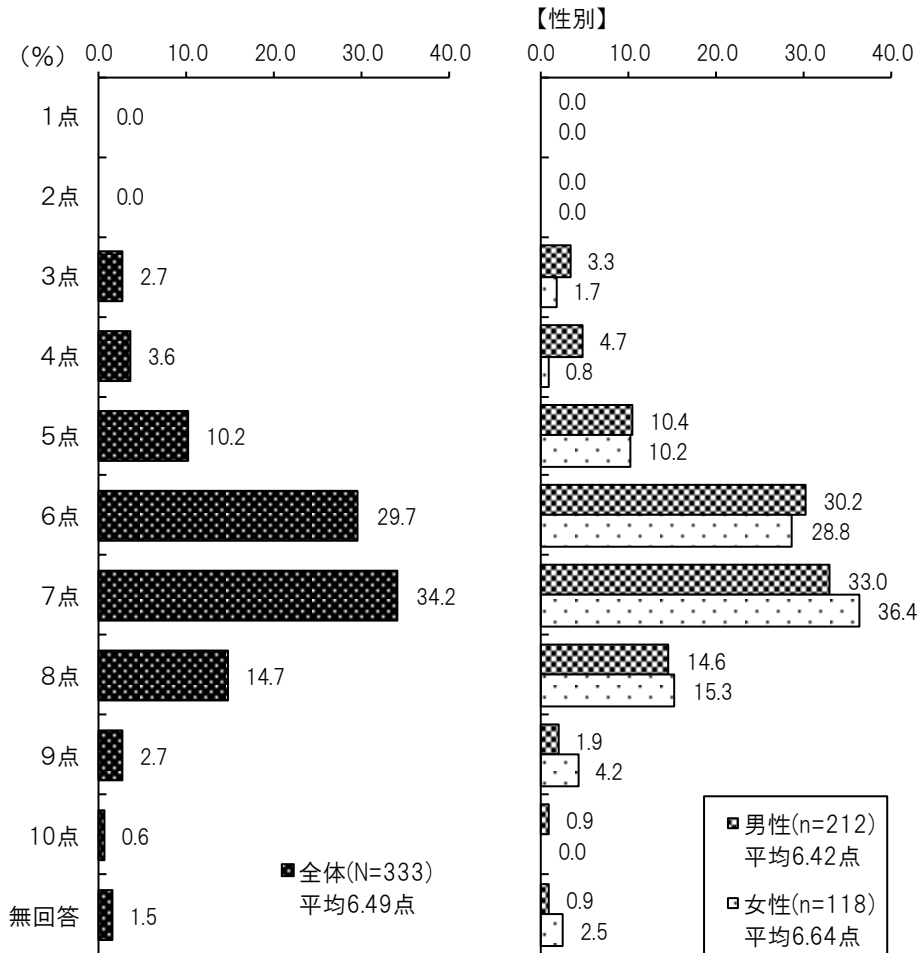
【3】暮らしについて

1 暮らしの幸福度

問 12 あなたは、市民が東温市での暮らしをどの程度「幸せ」に感じていると思いますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を1点とすると、何点くらいになると思いますか。あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

暮らしの幸福度については、「7点」の割合が34.2%と最も高く、次いで「6点」(29.7%)、「8点」(14.7%)、「5点」(10.2%)の順で、平均6.49点となっている。

性別では、女性で「7点」の割合が男性をやや上回っているものの、平均点に大きな差はみられない。



年齢別では、年齢が上がるほど平均点もおおむね高くなる傾向にある。

愛着度別では、愛着を感じる層で7～8点の割合が高く、平均点も他の層に比べて高くなっている。

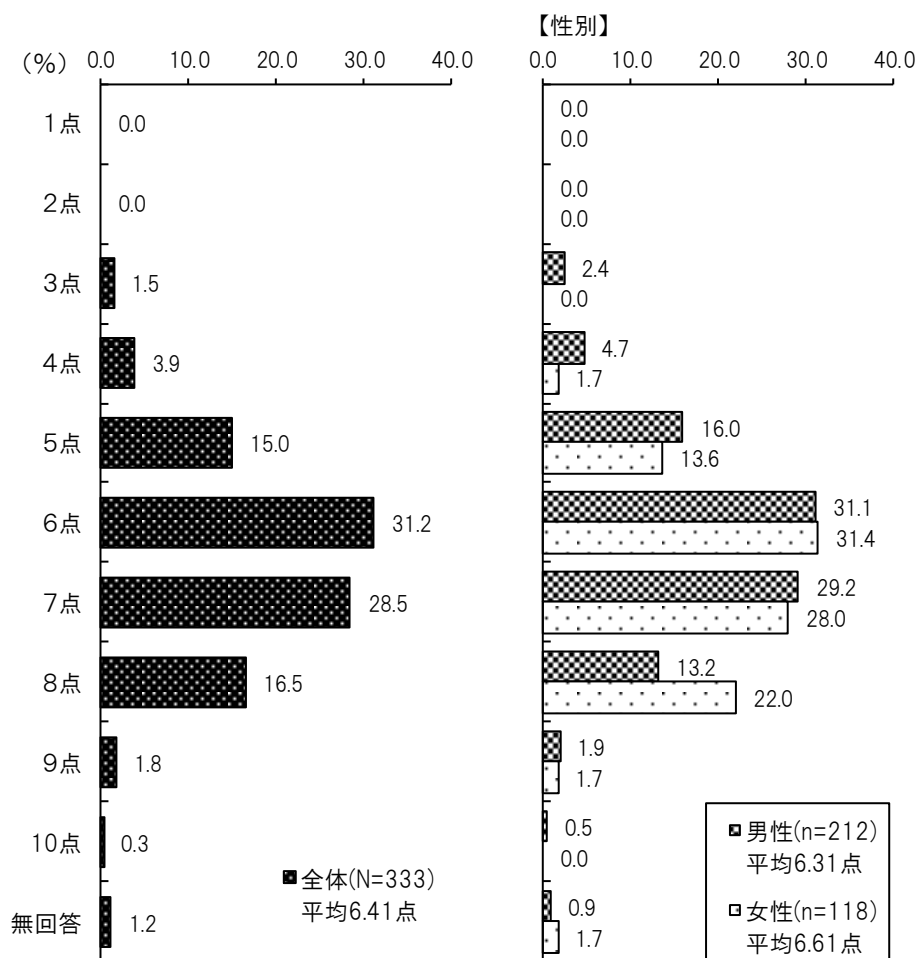
単位 (%)	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	平均点
全体(N=333)	0.0	0.0	2.7	3.6	10.2	29.7	34.2	14.7	2.7	0.6	6.49
【年齢別】											
20歳代(n=68)	0.0	0.0	4.4	7.4	8.8	22.1	33.8	16.2	4.4	1.5	6.49
30歳代(n=81)	0.0	0.0	3.7	3.7	8.6	33.3	38.3	8.6	1.2	0.0	6.33
40歳代(n=92)	0.0	0.0	2.2	3.3	13.0	34.8	31.5	10.9	2.2	1.1	6.38
50歳代(n=81)	0.0	0.0	1.2	1.2	9.9	28.4	35.8	19.8	2.5	0.0	6.68
60歳以上(n=8)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	62.5	12.5	0.0	7.75
【愛着度別】											
愛着を感じる(n=275)	0.0	0.0	2.2	1.8	8.0	26.9	37.8	17.8	3.3	0.7	6.69
どちらともいえない(n=39)	0.0	0.0	2.6	10.3	20.5	43.6	23.1	0.0	0.0	0.0	5.74
愛着を感じない(n=16)	0.0	0.0	12.5	18.8	18.8	43.8	0.0	0.0	0.0	0.0	5.00

2 暮らしの満足度

問 13 あなたは、市民が東温市での暮らしにどの程度「満足」していると思いますか。「とても満足」を10点、「全く満足していない」を1点とすると、何点くらいになると思いますか。あてはまる番号1つに○をつけて下さい。

暮らしの満足度については、「6点」の割合が31.2%と最も高く、次いで「7点」(28.5%)、「8点」(16.5%)、「5点」(15.0%)の順で、平均6.41点となっている。

性別では、女性で「8点」の割合が男性を上回っており、平均点も女性の方がやや高くなっている。



年齢別では、年齢が上がるほど平均点もおおむね高くなる傾向にある。

愛着度別では、愛着を感じる層で7～8点の割合が高く、平均点も他の層に比べて高くなっている。

単位 (%)	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	平均点
全体(N=333)	0.0	0.0	1.5	3.9	15.0	31.2	28.5	16.5	1.8	0.3	6.41
【年齢別】											
20歳代(n=68)	0.0	0.0	2.9	7.4	11.8	36.8	22.1	14.7	2.9	0.0	6.25
30歳代(n=81)	0.0	0.0	2.5	4.9	16.0	30.9	30.9	11.1	1.2	0.0	6.24
40歳代(n=92)	0.0	0.0	1.1	4.3	19.6	32.6	26.1	14.1	1.1	1.1	6.30
50歳代(n=81)	0.0	0.0	0.0	0.0	12.3	24.7	38.3	21.0	2.5	0.0	6.76
60歳以上(n=8)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5	0.0	62.5	0.0	0.0	7.25
【愛着度別】											
愛着を感じる(n=275)	0.0	0.0	1.1	2.5	11.6	30.5	32.0	18.5	2.2	0.4	6.58
どちらともいえない(n=39)	0.0	0.0	2.6	7.7	28.2	38.5	17.9	5.1	0.0	0.0	5.77
愛着を感じない(n=16)	0.0	0.0	6.3	18.8	37.5	25.0	0.0	6.3	0.0	0.0	5.13

【4】今後のまちづくりについて

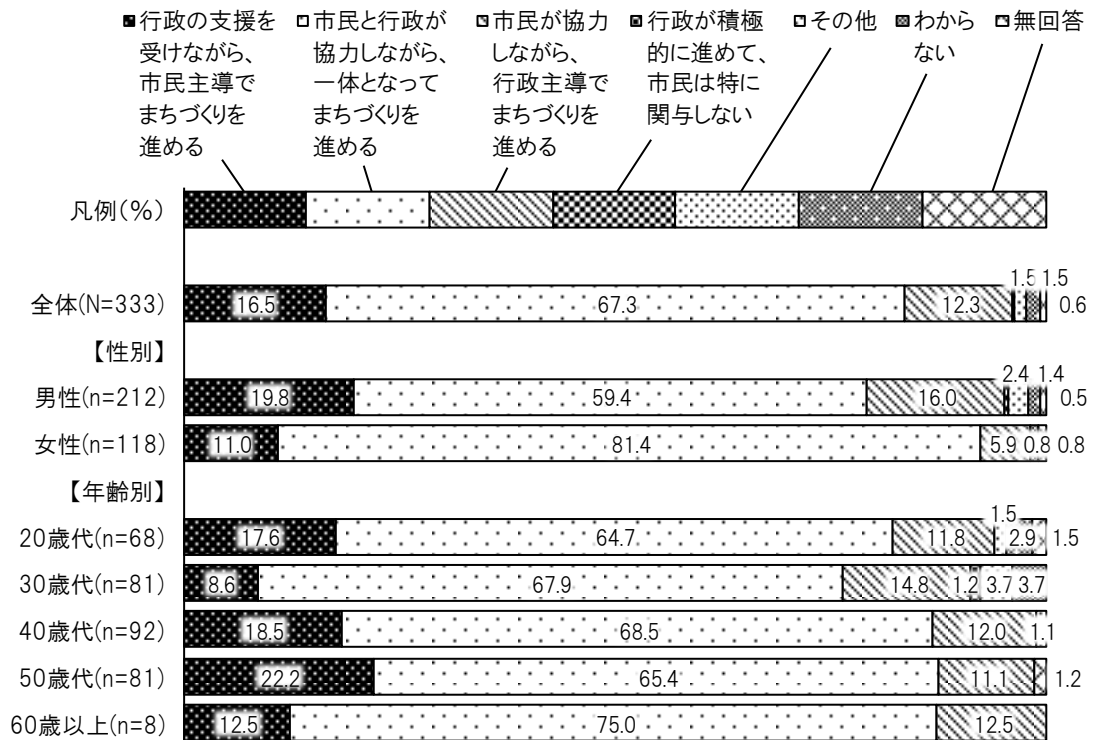
1 今後のまちづくりにおける市民と行政の関係性

問 14 あなたは、今後のまちづくりにおいて、市民と行政の関係はどうあるべきだと思いますか。（〇は1つ）

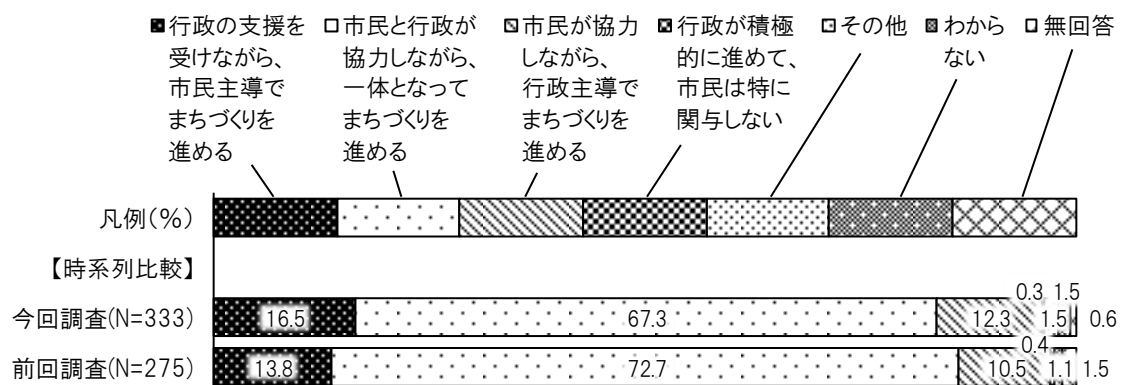
今後のまちづくりにおける市民と行政の関係性については、「市民と行政が協力しながら、一体となってまちづくりを進める」の割合が67.3%と最も高く、次いで「行政の支援を受けながら、市民主導でまちづくりを進める」（16.5%）、「市民が協力しながら、行政主導でまちづくりを進める」（12.3%）の順となっている。

性別では、男性は女性に比べて「行政の支援を受けながら、市民主導でまちづくりを進める」「市民が協力しながら、行政主導でまちづくりを進める」の割合が高く、女性で「市民と行政が協力しながら、一体となってまちづくりを進める」の割合が男性を上回っている。

年齢別では、30歳代で「行政の支援を受けながら、市民主導でまちづくりを進める」の割合が、他の年齢層に比べて低くなっている。



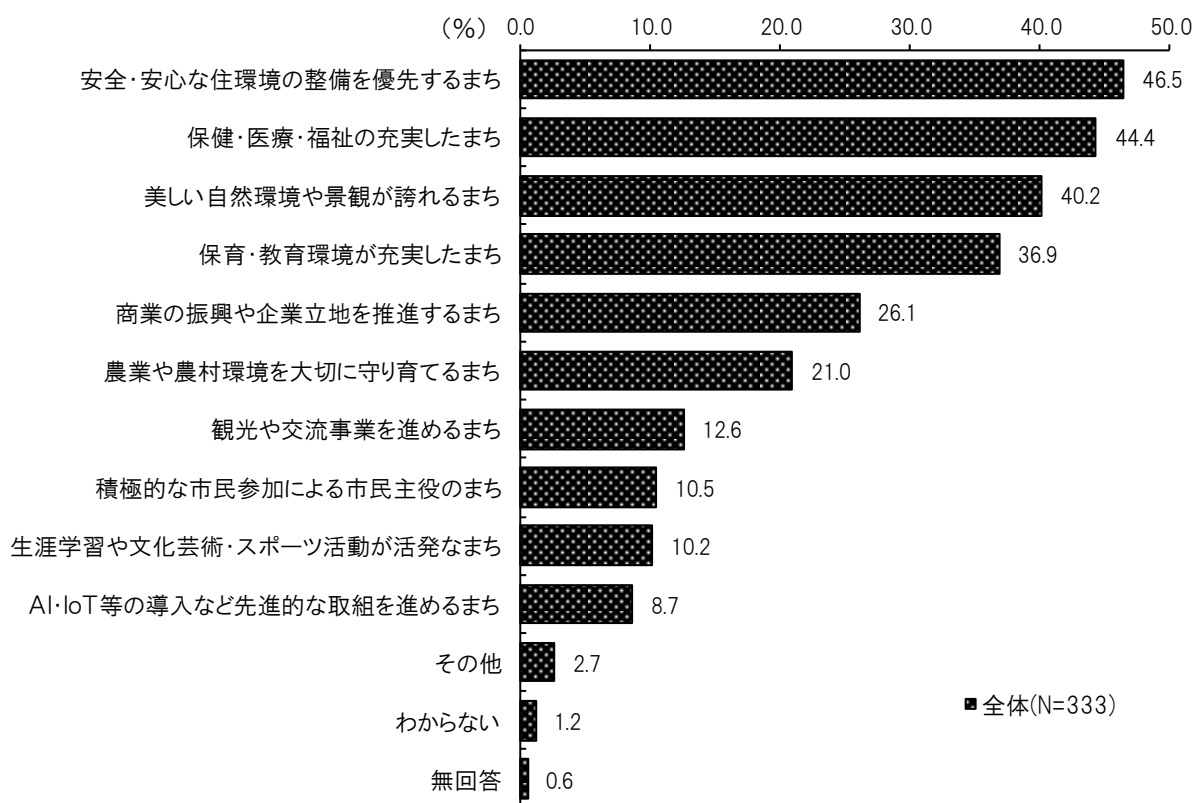
【参考／前回調査との比較】



2 東温市の将来像

問 15 あなたは、今後、東温市をどのようなまちにしたいと考えますか。
(○は3つまで)

東温市の将来像については、「安全・安心な住環境の整備を優先するまち」の割合が46.5%と最も高く、次いで「保健・医療・福祉の充実したまち」(44.4%)、「美しい自然環境や景観が誇れるまち」(40.2%)、「保育・教育環境が充実したまち」(36.9%)の順となっている。



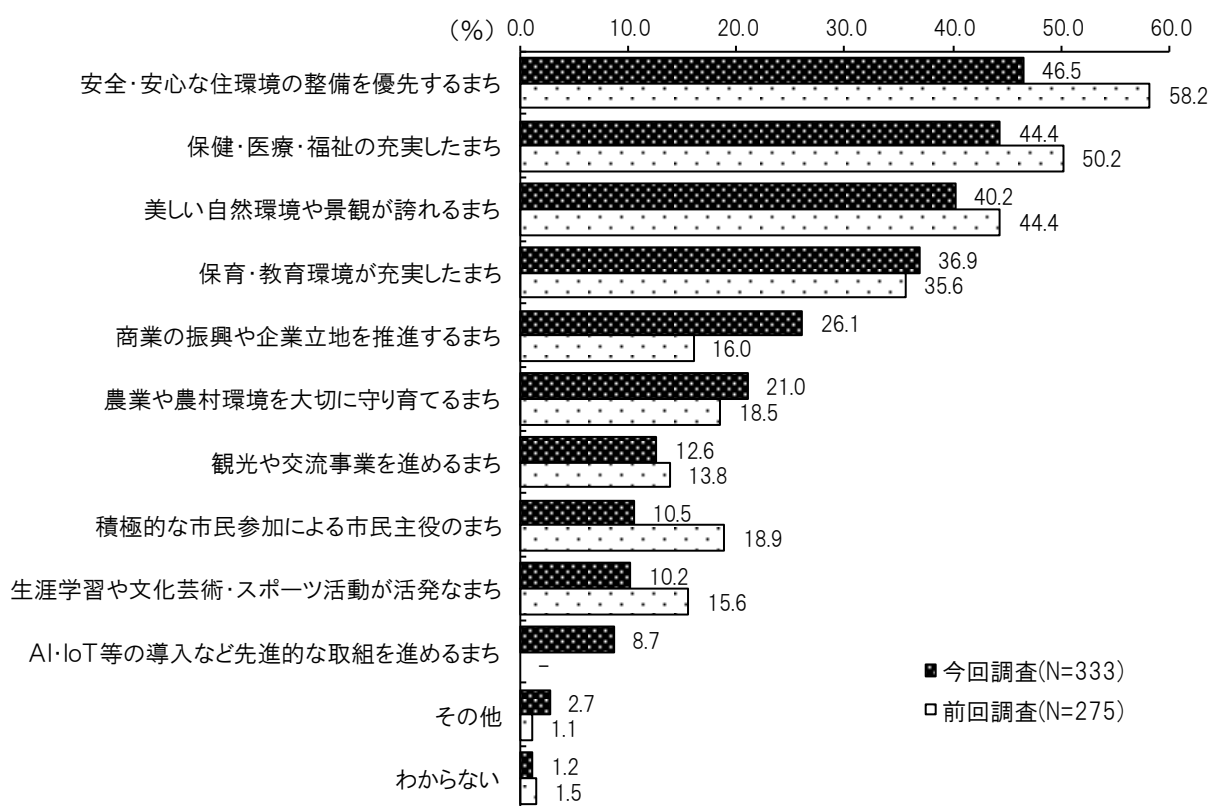
性別では、男性は女性に比べて「商業の振興や企業立地を推進するまち」の割合が高く、女性で「美しい自然環境や景観が誇れるまち」「保育・教育環境が充実したまち」の割合が男性を上回っている。

年齢別では、30歳代で「保育・教育環境が充実したまち」、50歳代で「農業や農村環境を大切に守り育てるまち」の割合が、他の年齢層に比べてそれぞれ高くなっている。

居住歴別では、市出身で市外に居住する層で「美しい自然環境や景観が誇れるまち」「農業や農村環境を大切に守り育てるまち」、市外出身で市内に居住する層で「商業の振興や企業立地を推進するまち」、市外出身で市外に居住する層で「保育・教育環境が充実したまち」の割合が、それぞれ高くなっている。

単位 (%)	安全・安心な住環境の整備	保健・医療・福祉の充実したまち	美しい自然環境や景観が誇れるまち	保育・教育環境が充実したまち	商業の振興や企業立地を推進するまち	農業や農村環境を大切に守り育てるまち	観光や交流事業を進めるまち	積極的な市民参加による民主役のまち	生涯学習や文化芸術・スポーツ活動が活発なまち	先進的な取組を進めるまち	A・I・O・T等の導入など	その他	わからない
全体(N=333)	46.5	44.4	40.2	36.9	26.1	21.0	12.6	10.5	10.2	8.7	2.7	1.2	
【性別】													
男性(n=212)	46.2	41.5	33.0	27.4	34.0	18.4	14.2	10.8	11.8	10.4	3.8	1.4	
女性(n=118)	46.6	49.2	53.4	54.2	11.0	26.3	10.2	10.2	7.6	5.1	0.8	0.8	
【年齢別】													
20歳代(n=68)	44.1	39.7	38.2	38.2	35.3	14.7	14.7	8.8	11.8	14.7	1.5	0.0	
30歳代(n=81)	42.0	44.4	39.5	49.4	34.6	9.9	14.8	7.4	9.9	11.1	2.5	0.0	
40歳代(n=92)	47.8	45.7	40.2	32.6	21.7	23.9	16.3	13.0	8.7	8.7	2.2	2.2	
50歳代(n=81)	49.4	44.4	42.0	25.9	17.3	34.6	6.2	12.3	9.9	0.0	4.9	2.5	
60歳以上(n=8)	62.5	75.0	37.5	50.0	0.0	25.0	0.0	12.5	25.0	12.5	0.0	0.0	
【居住歴別】													
市出身で市内に居住(n=172)	47.7	45.9	34.3	34.3	20.9	21.5	11.6	12.2	8.7	8.1	4.7	2.3	
市出身で市外に居住(n=38)	39.5	34.2	60.5	34.2	18.4	31.6	10.5	7.9	7.9	7.9	0.0	0.0	
市外出身で市内に居住(n=63)	42.9	41.3	41.3	38.1	38.1	19.0	14.3	6.3	15.9	11.1	1.6	0.0	
市外出身で市外に居住(n=58)	51.7	50.0	43.1	44.8	32.8	15.5	15.5	12.1	10.3	6.9	0.0	0.0	

【参考／前回調査との比較】

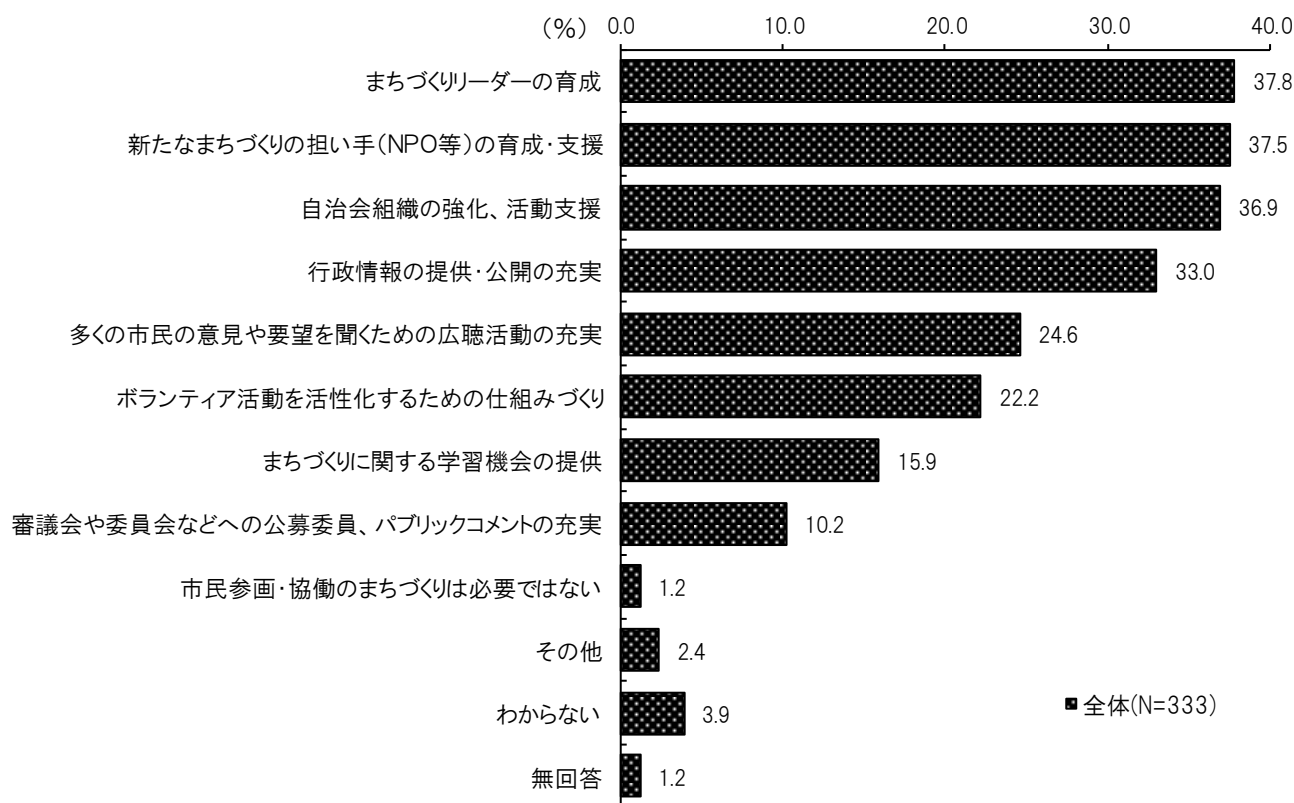


注：「-」は今回調査で追加された選択肢

3 「市民参画・協働のまちづくり」のために必要な取組

問 16 市民と行政が協力して地域の課題解決やまちづくりを行う「市民参画・協働のまちづくり」を進めるため、今後、行政ではどのような取組が必要だと思いますか。（〇は3つまで）

「市民参画・協働のまちづくり」のために必要な取組については、「まちづくりリーダーの育成」の割合が37.8%と最も高く、次いで「新たなまちづくりの担い手（NPO等）の育成・支援」（37.5%）、「自治会組織の強化、活動支援」（36.9%）、「行政情報の提供・公開の充実」（33.0%）の順となっている。

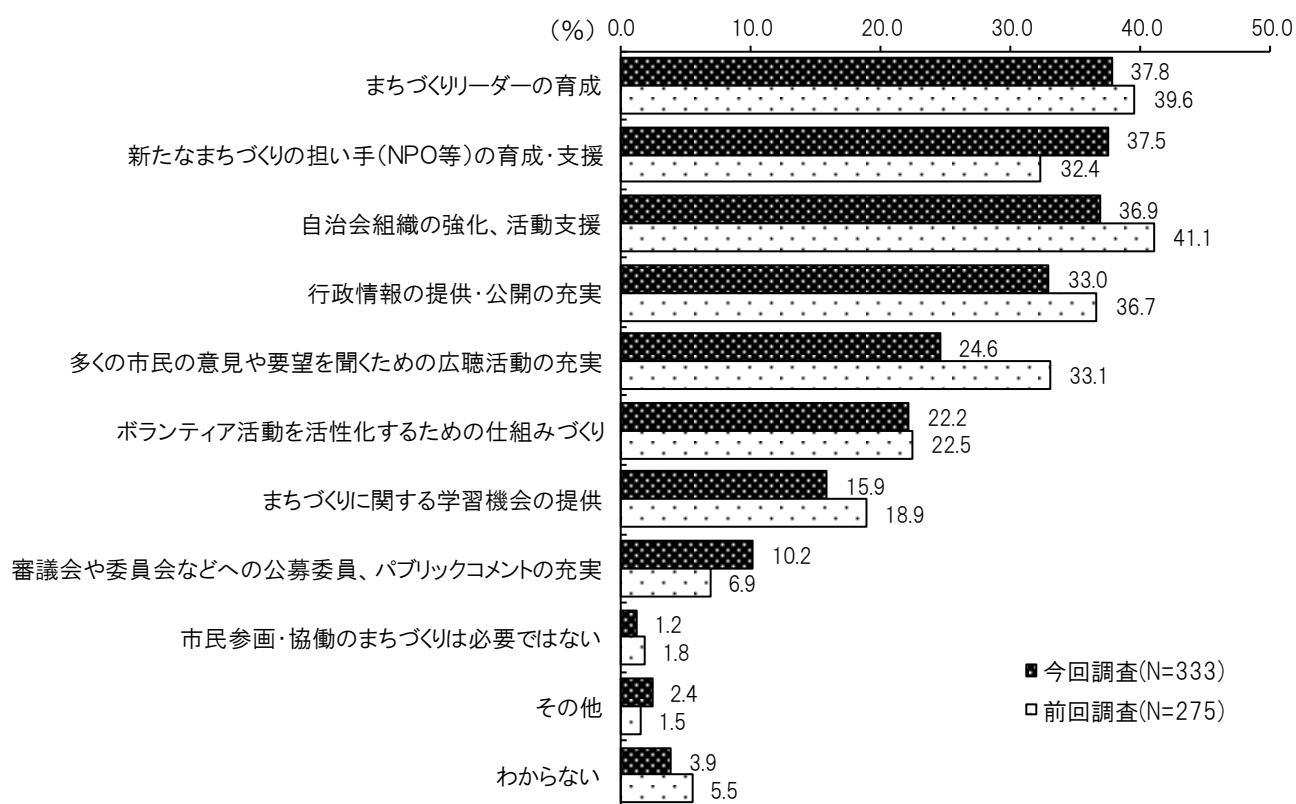


性別では、男性は女性に比べて「まちづくりリーダーの育成」「自治会組織の強化、活動支援」の割合が高く、女性で「多くの市民の意見や要望を聞くための広聴活動の充実」の割合が男性を上回っている。

年齢別では、20歳代で「行政情報の提供・公開の充実」「多くの市民の意見や要望を聞くための広聴活動の充実」「審議会や委員会などへの公募委員、パブリックコメントの充実」、40歳代で「新たなまちづくりの担い手（NPO等）の育成・支援」、50歳代で「まちづくりリーダーの育成」「自治会組織の強化、活動支援」の割合が、他の年齢層に比べてそれぞれ高くなっている。

単位 (%)	育成・まちづくりリーダーの育成	成手・支援（NPO等）の担	新たなまちづくりの担	自治会組織の強化、活動	行政情報の提供・公開の充実	多くの市民の意見や要望を聞くための広聴活動	多くの市民の意見や要望を聞くための広聴活動	まちづくりの活性化するための活動	まちづくりに関する学習	まちづくりに関する学習	審議会や委員会などへの公募委員、パブリックコメントの充実	市民参加・協働の促進	その他	わからない
全体(N=333)	37.8	37.5	36.9	33.0	24.6	22.2	15.9	10.2	1.2	2.4	3.9			
【性別】														
男性(n=212)	41.5	34.9	42.5	31.1	20.8	24.1	14.2	8.5	1.9	3.3	3.3			
女性(n=118)	31.4	42.4	27.1	36.4	32.2	17.8	19.5	12.7	0.0	0.8	5.1			
【年齢別】														
20歳代(n=68)	22.1	41.2	19.1	42.6	33.8	22.1	19.1	19.1	1.5	1.5	4.4			
30歳代(n=81)	35.8	34.6	34.6	34.6	29.6	18.5	16.0	9.9	2.5	2.5	4.9			
40歳代(n=92)	38.0	44.6	43.5	29.3	19.6	20.7	15.2	7.6	0.0	3.3	5.4			
50歳代(n=81)	53.1	29.6	46.9	25.9	17.3	23.5	12.3	6.2	1.2	2.5	1.2			
60歳以上(n=8)	50.0	37.5	25.0	37.5	37.5	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0			

【参考／前回調査との比較】



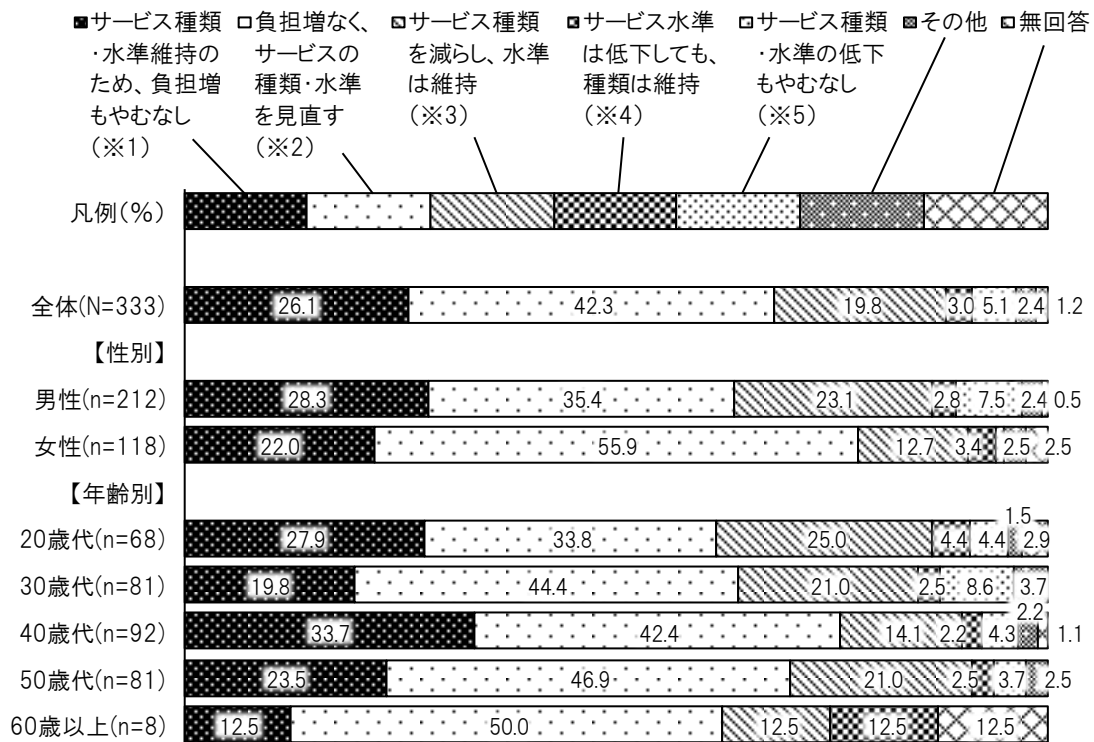
4 今後の行政サービスのあり方

問 17 地方自治体を取り巻く財政状況は依然として厳しく、これからのまちづくりは、限られた財源をより効果的に配分・活用していくことが求められています。これまでも経費の削減や収入の確保に努めていますが、これからの行政サービスのあり方について、どのようにお考えですか。（〇は1つ）

今後の行政サービスのあり方については、「利用者の負担を増やすことなく、サービスの重点化を図り、種類や水準を見直す」の割合が42.3%と最も高く、次いで「サービスの種類や水準を維持するためには、利用者の負担増はやむを得ない」（26.1%）、「サービスの種類が減るのは仕方ないが、サービスの水準は維持する」（19.8%）の順となっている。

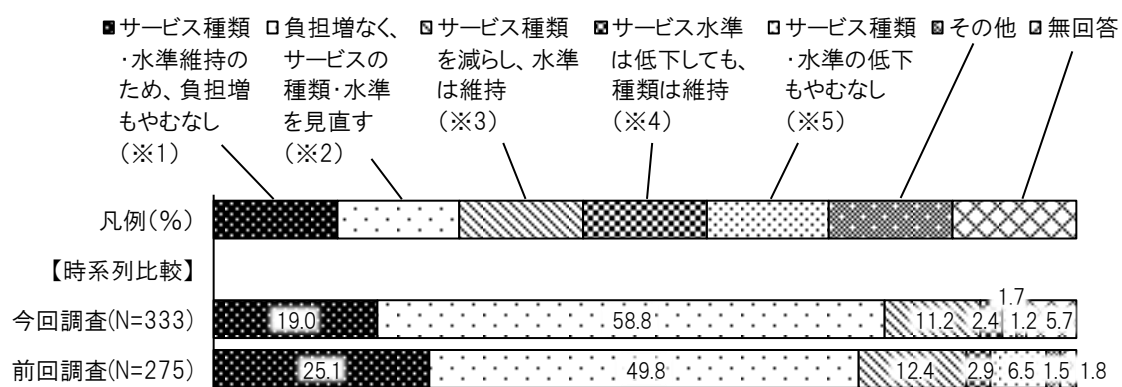
性別では、女性で「利用者の負担を増やすことなく、サービスの重点化を図り、種類や水準を見直す」の割合が男性を上回っている。

年齢別では、40歳代で「サービスの種類や水準を維持するためには、利用者の負担増はやむを得ない」の割合が、他の年齢層に比べて高くなっている。



※1: サービスの種類や水準を維持するためには、利用者の負担増はやむを得ない
 ※2: 利用者の負担を増やすことなく、サービスの重点化を図り、種類や水準を見直す
 ※3: サービスの種類が減るのは仕方ないが、サービスの水準は維持する
 ※4: サービスの水準の低下は仕方ないが、サービスの種類は維持する
 ※5: サービスの種類が減り、水準も低下するのは仕方ない

【参考／前回調査との比較】

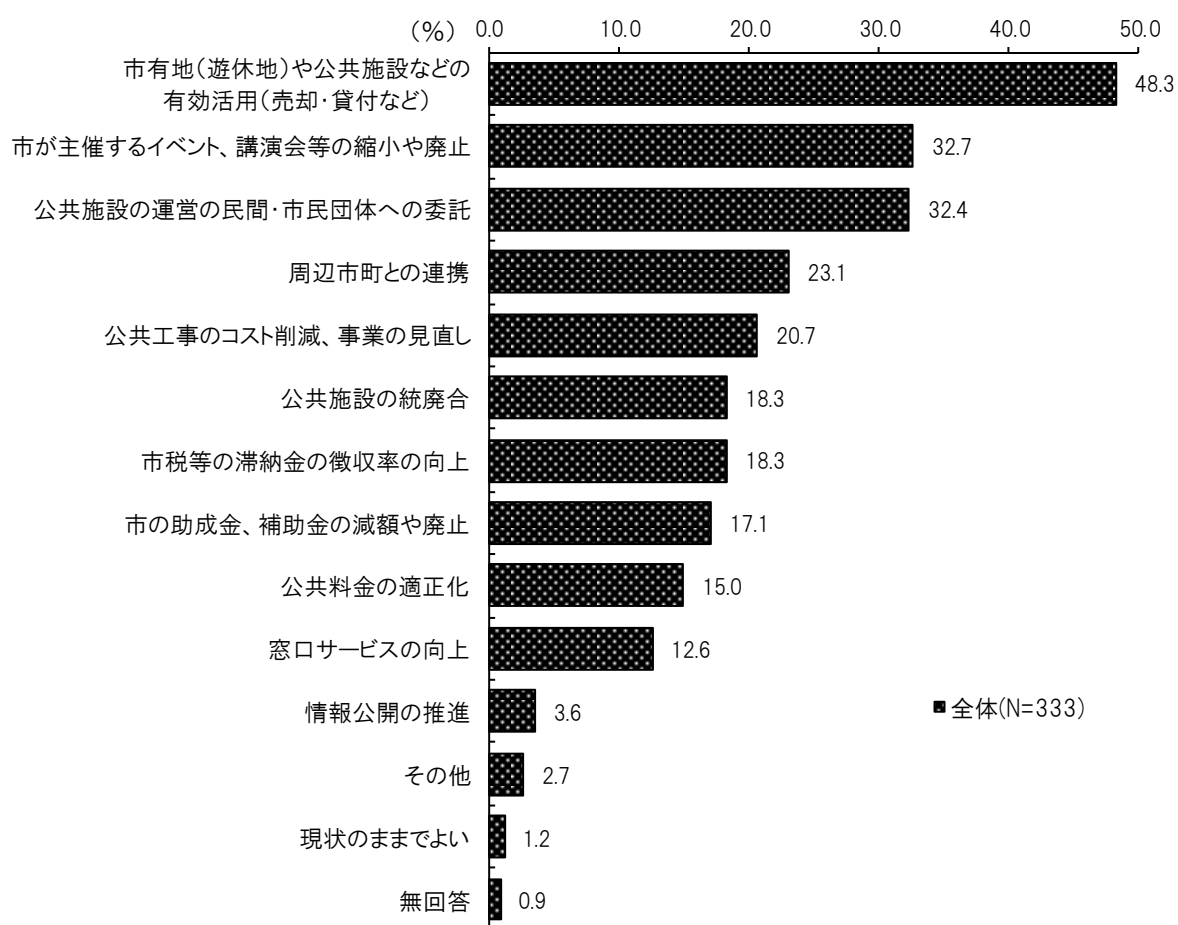


- ※1: サービスの種類や水準を維持するためには、利用者の負担増はやむを得ない
 ※2: 利用者の負担を増やすことなく、サービスの重点化を図り、種類や水準を見直す
 ※3: サービスの種類が減るのは仕方ないが、サービスの水準は維持する
 ※4: サービスの水準の低下は仕方ないが、サービスの種類は維持する
 ※5: サービスの種類が減り、水準も低下するのは仕方ない

5 東温市の行財政改革の優先項目

問 18 あなたは、東温市の今後の行財政改革で優先的に行うべき項目は何だと思えますか。(〇は3つまで)

東温市の行財政改革の優先項目については、「市有地（遊休地）や公共施設などの有効活用（売却・貸付など）」の割合が 48.3%と最も高く、次いで「市が主催するイベント、講演会等の縮小や廃止」（32.7%）、「公共施設の運営の民間・市民団体への委託」（32.4%）、「周辺市町との連携」（23.1%）、「公共工事のコスト削減、事業の見直し」（20.7%）の順となっている。

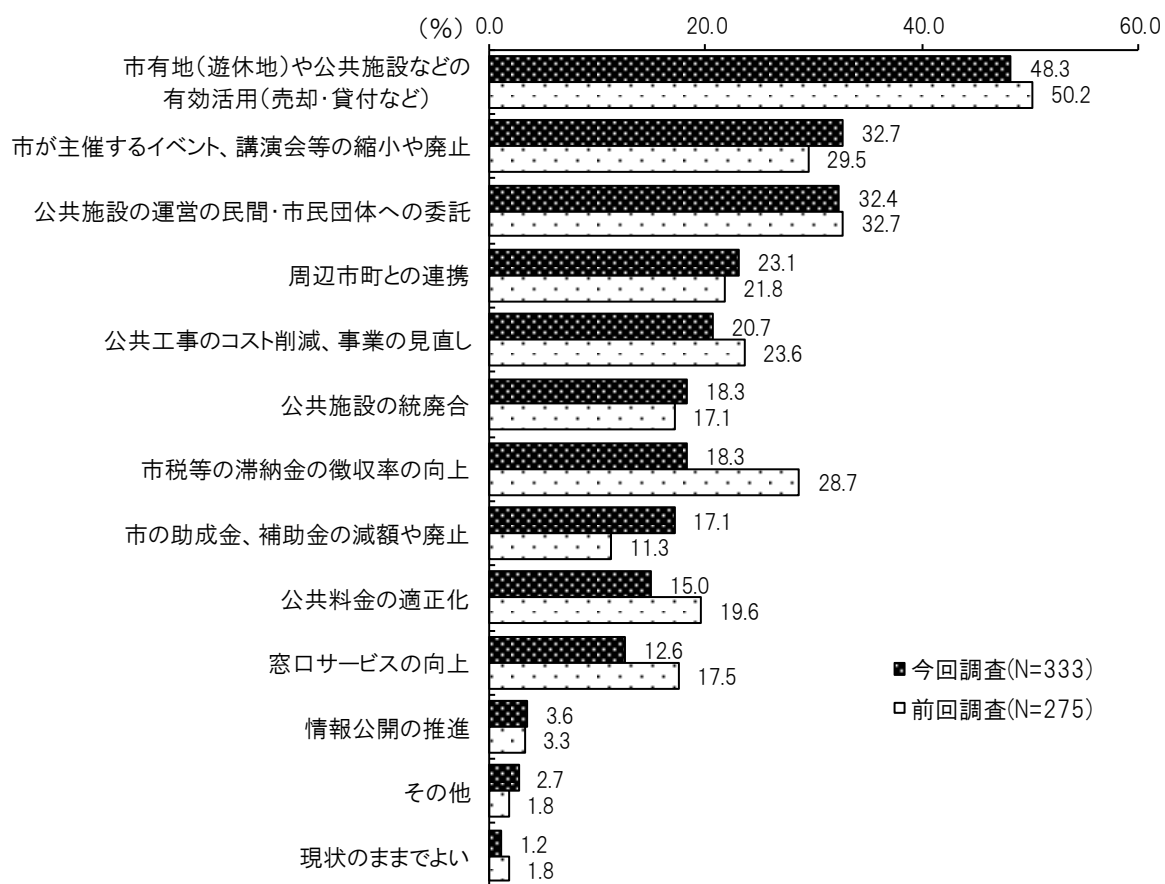


性別では、男性は女性に比べて「市が主催するイベント、講演会等の縮小や廃止」「公共施設の運営の民間・市民団体への委託」「公共施設の統廃合」「市の助成金、補助金の減額や廃止」の割合が高く、女性で「市有地（遊休地）や公共施設などの有効活用（売却・貸付など）」「市税等の滞納金の徴収率の向上」「窓口サービスの向上」の割合が男性を上回っている。

年齢別では、20歳代で「周辺市町との連携」、30歳代で「市が主催するイベント、講演会等の縮小や廃止」の割合が、他の年齢層に比べてそれぞれ高くなっている。

単位 (%)	公共施設などの有効活用 (売却・貸付など)	市有地(遊休地)や公 共施設の有効活用	廃止、講演会等の縮小 や	市が主催するイベン ト、	民間・市民団体への委託 の	公共施設の運営の民 間・	周辺市町との連携	公共事業の見直し削 減、	公共工事のコスト削 減、	公共施設の統廃合	市税等の滞納金の徴収 率の向上	市の助成金、補助金の 減額や廃止	公共料金の適正化	窓口サービスの向上	情報公開の推進	その他	現状のままでよい
全体(N=333)	48.3	32.7	32.4	23.1	20.7	18.3	18.3	17.1	15.0	12.6	3.6	2.7	1.2				
【性別】																	
男性(n=212)	45.3	39.2	35.4	23.1	21.7	22.2	15.6	21.7	16.0	9.9	3.3	2.4	0.9				
女性(n=118)	54.2	22.0	28.0	22.9	18.6	11.0	22.9	9.3	12.7	17.8	4.2	3.4	1.7				
【年齢別】																	
20歳代(n=68)	51.5	27.9	20.6	30.9	17.6	14.7	14.7	11.8	20.6	16.2	7.4	4.4	2.9				
30歳代(n=81)	40.7	42.0	38.3	18.5	21.0	21.0	18.5	22.2	9.9	11.1	2.5	3.7	0.0				
40歳代(n=92)	54.3	35.9	33.7	18.5	26.1	15.2	15.2	17.4	19.6	10.9	2.2	3.3	1.1				
50歳代(n=81)	45.7	28.4	34.6	27.2	17.3	21.0	21.0	17.3	11.1	13.6	3.7	0.0	0.0				
60歳以上(n=8)	50.0	0.0	37.5	12.5	12.5	25.0	50.0	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5				

【参考／前回調査との比較】



**東温市 まちづくり職員アンケート
報告書**

発 行 / 令和元年（2019年）10月
発 行 者 / 愛媛県 東温市
問 合 せ 先 / 東温市 総務部 企画政策課 企画政策係
〒791-0292 愛媛県東温市見奈良 530 番地 1
TEL (089) 964-4473
FAX (089) 964-1609
